

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	2
2. 研究科・専攻等の名称及び学位の名称	22
3. 教育課程の編成の考え方及び特色	25
4. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件	33
5. 基礎となる学部との関係	43
6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修 させる場合	44
7. 「大学院設置基準」第2条の2又は第14条による教育方法の実施	45
8. 取得可能な主な資格（受験資格）	47
9. 入学者選抜の概要	48
10. 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色	51
11. 研究の実施についての考え方、体制、取組	55
12. 施設、設備等の整備計画	57
13. 管理運営	59
14. 自己点検・評価	61
15. 情報の公開	62
16. 教育内容等の改善のための組織的な研修	63

1. 設置の趣旨及び必要性

1) 背景

東北大学大学院医学系研究科は、医科学専攻、障害科学専攻、保健学専攻、公衆衛生学専攻の4専攻体制で年間243名（入学定員）の大学院学生を受け入れ、各専攻の学問体系に基づいた高度な教育研究を実践してきた。これまで多くの優れた研究者、医療人材を輩出し、医学・医療の発展に大きく貢献してきた実績がある（図1）。

図1. 本医学系研究科の歴史と現状



東日本大震災等の大規模自然災害の頻発、新型コロナウイルス感染症パンデミック、超高齢社会・人口減少、世界における経済および学術研究の地位低下、学術・教育のグローバル化加速など、医学・医療を取り巻く社会情勢は大きく変化している。また、数理・AI・データサイエンスを活用した革新的研究の展開や精神的豊かさ（ウェルビーイング）に関わる医学研究の重要性が増すなど、医学・医療の新領域研究も急速に発展している。

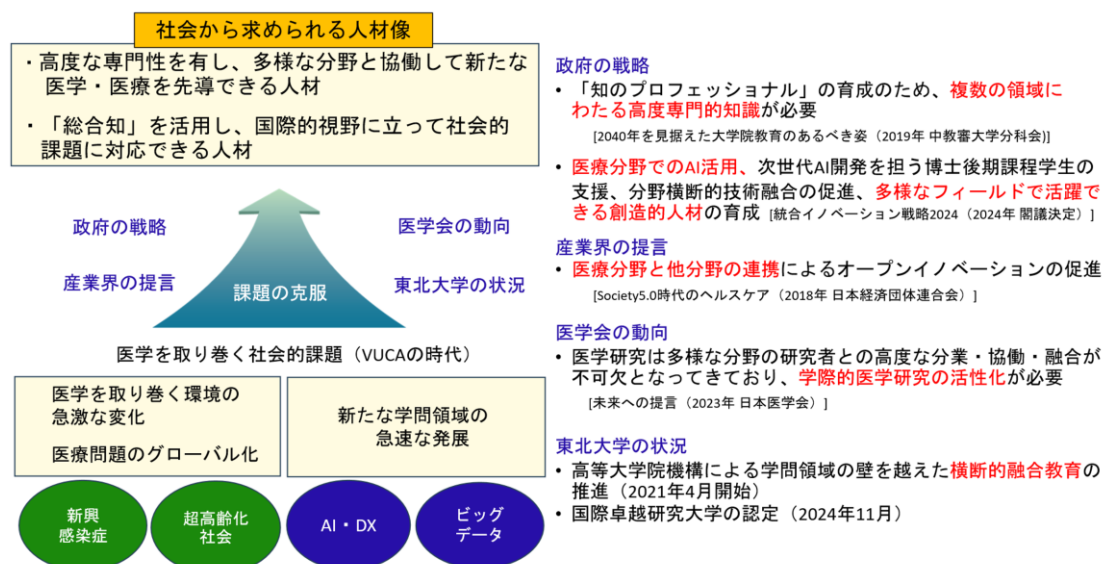
このような変化に対応するため、現行の4専攻体制では以下の課題が顕在化している。

- （1）専攻間の壁により学際的な教育・研究の展開が困難
- （2）医療AI・ビッグデータ活用を担う人材育成体制の強化が必要
- （3）分野横断的技術融合を推進する教育プログラムが不足
- （4）研究倫理・情報管理の徹底教育が必要
- （5）研究医養成の強化の遅れ
- （6）国際的視野を持つ人材育成体制の強化が必要

2) 社会的要請と改組の必要性

医学・医療を取り巻く情勢の急激な変化を受け、学際的医学研究の活性化や多分野と協働し総合知を活用できる人材を求める声が社会で急速に高まっており、政府・産業界・学术界から様々な提言がなされている（図2）。

図2. 社会的要請と求められる人材像



例えば政府の「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿（2019年1月中央教育審議会大学分科会）」では、「知のプロフェッショナル育成のための複数領域にわたる高度専門知識の必要性」「STEAM、データサイエンス、幅広い教養の重要性」が掲げられており、「統合イノベーション戦略2024（2024年6月閣議決定）」においては、「医療分野でのAI利活用推進」「次世代AI開発を担う若手研究者・博士後期課程学生支援」「分野横断的技術融合の促進」「国際的切磋琢磨を通じた研究力向上」「多様なフィールドで活躍できる創造的人材の育成」が強調されている。

また、日本経済団体連合会では、「Society 5.0時代のヘルスケア（2018年3月）」において、「医療分野と他分野の連携によるオープンイノベーションの促進」を強調しており、医学界においても「未来への提言（2023年3月）日本医学会」の中で、医学研究は多様な分野の研究者との高度な分業・協働・融合が不可欠とし、「多様な分野の研究者との高度な分業・協働・融合の必要性」「学際的医学研究の活性化」「研究者のダイバーシティ向上」「研究医育成の新たな取り組み」の必要性が強調されている。

さらに東北大学自身も、建学理念である「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」に基づく大学院教育改革を進め、高等大学院機構（2021年4月開始）による「学問領域の壁を超えた横断的融合教育の推進」や、国際卓越研究大学としての認定（2024年度）による「国際的に卓越した研究展開」「若手研究者のグローバルな人材育成の加速」に取り組んでいる。

これらの社会的要請に応え次世代の医学・医療を担う優れた人材を育成するためには、現行の4専攻を「総合医学専攻」の1専攻体制に再編し、大学院における教育内容を改革することが必要であり、専攻の再編により以下の効果が期待できる。

- (1) 学際性の強化：専攻の壁を取り払うことで、基幹分野の専門性維持と学際的教育・研究の両立による人材育成が可能となる。
- (2) 総合知の涵養：基盤科目・総合科目の設置により、複雑な社会的課題に総合知をもって対応できる人材育成が可能となる。
- (3) 国際性の向上：国際的視野とコミュニケーション能力を育む教育プログラムの充実により、グローバルに活躍できる人材育成が可能となる。
- (4) 研究医養成の強化：専門医学知識と周辺学問領域を統合した教育プログラムを構築することにより、研究医養成の強化が可能となる。
- (5) 教育の質向上：科目体系の整理と大学院教育センターの設立により、戦略的な教育活動の展開と質保証が可能となる。

3) まとめ

東北大学大学院医学系研究科の現行4専攻から総合医学専攻への再編は、現在の研究科が直面する課題を解決し、政府・産業界・学术界からの社会的要請に応えるための戦略的な改革である。

現行の4専攻体制では、専攻間の壁により学際的な教育・研究の展開が困難であり、医療AI・ビッグデータ活用を担う人材育成、分野横断的技術融合の推進、研究倫理・情報管理の徹底教育、研究医養成の強化、国際的視野を持つ人材育成が課題となっていた。

総合医学専攻への再編により、学際性の強化、総合知の涵養、国際性の向上、研究医養成の強化、教育の質向上が実現する。具体的には、基盤科目・総合科目・専門科目の3区分による体系的な教育課程、複数教員指導制度、国際性・多様性を涵養する教育プログラム、大学院教育センターの設立などにより、高度な専門性と学際的視野を併せ持つ人材、国際的に活躍できる医学研究者・医療人を育成することが可能となる。

この再編は、東北大学の建学理念である「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」に基づくものであり、本学における高等大学院機構による横断的融合教育の推進や、国際卓越研究大学としての研究力強化と人材育成の加速にも合致している。

総合医学専攻の設置により、東北大学大学院医学系研究科は、複雑化・グローバル化する社会の要請に応え、次世代の医学・医療を担う優れた人材を育成し、医学・医療の発展に大きく貢献することができる。

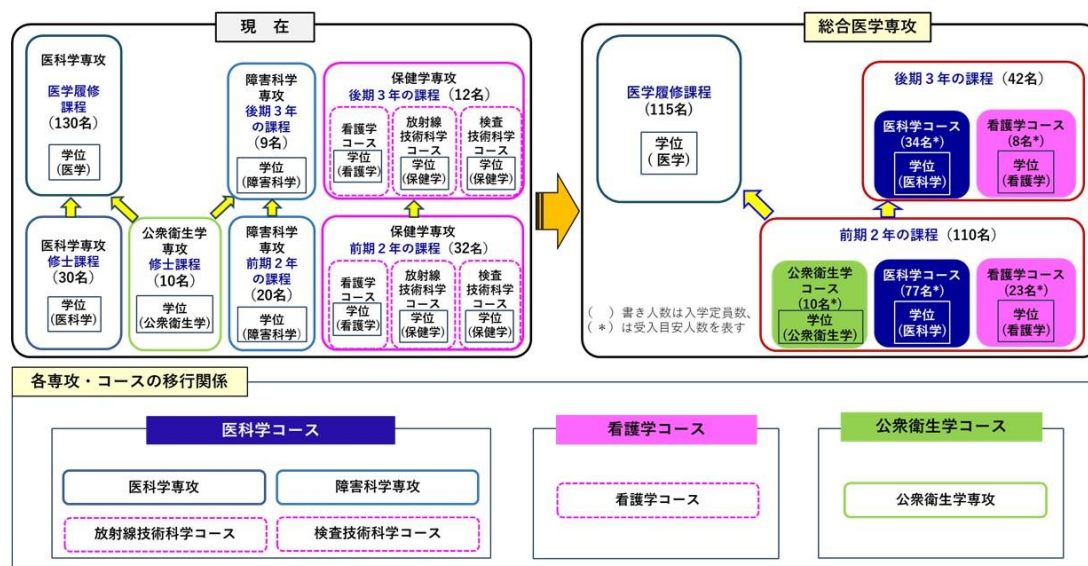
4) 教育の目的と養成する人材像

総合医学専攻では、高度な専門的知識・技術と学際的な多彩な知を合わせ持つ人材育成、多様化・専門化する医療の一線で世界を視野に活躍できる高度専

門医療人の養成、高い倫理観を持って次世代の医学・医療を推進する研究者や研究医の育成を教育研究上の理念・目的としている。

現行の組織と再編後の組織の移行を図3に示す。

図3. 医学系研究科の組織再編(移行図)



博士課程前期2年の課程は医科学コース、看護学コース、公衆衛生学コースの3コースからなる。このうち医科学コースは医学領域を広く内包し、多面的な融合教育を行う。現行の医科学専攻修士課程のみならず、障害科学専攻、保健学専攻放射線技術科学コース及び検査技術科学コースも再編後は医科学コースで継承し発展させる。これらは今まで別々に大学院教育を行ってきたが、再編後は多様な背景・目的を持つ学生で構成される集団となり、その環境で学際性、国際性、課題解決能力、連携力等を養成する。更にそれを土台に高度な専門教育を発展させることで、現在の社会的要請に応えられる柔軟性・行動力に富んだ優れた人材を育てる。他学部、社会人、留学生等多様なバックグラウンドを持つ人材を今まで以上受け入れやすくなり、高い需要が見込まれる。

一方、看護学コースは保健師や助産師の資格を取得するための科目が用意されたコース、公衆衛生学コースは公衆衛生学修士 (Master of Public Health: MPH) を取得するための科目が用意されたコースで、現在の保健学専攻看護学コース及び公衆衛生学専攻の教育を継承発展させる。いずれのコースも社会のニーズが極めて高い国家資格の取得を目的としており、医療系高度職業人の養成課程として、今後も高い需要が期待される。

博士課程後期3年の課程は医科学コース及び看護学コースからなる。医科学コースは博士課程前期2年の課程医科学コース修了生の主な進学先として新設し、現在の障害科学専攻、保健学専攻放射線技術科学コース及び検査技術科学コースの博士課程後期3年の課程もここで継承発展する。国際卓越研究大学と

して発展するための研究力の担い手でもあり、留学生の増加も含めて新たな需要が見込まれる。

一方、看護学コースは現在の保健学専攻看護学コースを継承するものである。

博士課程後期3年の課程に公衆衛生学コースは設置しないが、博士課程前期2年の課程の修了生が進学する場合、医学履修課程あるいは博士課程後期3年の課程の医科学コースにおいて研究の継続が可能である。その場合、博士課程前期2年の課程公衆衛生学コースを担当する社会医学講座の教員は、医学履修課程及び博士課程後期3年の課程医科学コースの指導も担当するため、学生は同じ指導教員体制で教育・研究を継続することが可能である。

なお、公衆衛生学修士（MPH）は医療系高度職業人としての社会的ニーズが高く、進学せずに医療機関、国内行政、国際保健、臨床試験等の関連機関で職を得る場合であっても、十分活躍が期待できる。

医学履修課程は、医学部医学科卒業後あるいは修士課程修了後に進学する一貫性の博士課程（4年の課程）であり、医学・医療における最先端の専門的知識を身に付け世界で活躍できる基礎医学研究者や真のフィジシャン・サイエンティストの養成を行う。

総合医学専攻では高度専門的職業人の養成も発展させるが、研究者養成により重点を置く。今回の専攻再編によって、従来から実施している高度な専門教育に加えて先導的な学際教育が大きく加速する。学生は自らの専門性を医学・医療の広い視点から認識し、他領域との協働や分野横断的先進技術の応用等が活発化する。このような柔軟で広い視野を持った研究者は今日の社会のニーズに応えるものであり、医学・医療を担う優れた人材として高い需要が期待される。

（1）博士課程前期2年の課程 課程共通（表1）

① 養成する人材像：

高度化しかつ複雑化する医療ニーズに応えながら、次々と新しく出現する最新医療を理解し応用できる高度医療人を育成する。医学、看護学、公衆衛生学に関する高度な専門的知識と学識を備え、それらに関連する幅広い先端技術を身につけ、医療現場に発展性を持って還元できる能力を習得させるとともに、他分野等との連携を通して学際的な包括的医療を行う能力を涵養する。国際的な視野に立ち、高い目的意識とリーダーシップを育てる機会を提供するとともに、医学、看護学、公衆衛生学に関する高度な専門的知識・技術と幅広く豊かな知を合わせ持ち、高い倫理観を持って、研究・医療の最前線で活躍できる実践的な人材を育成する。修了後は医療機関、保健行政機関、研究機関、医薬品開発会社、公務員、博士課程後期3年の課程や医学履修課程への進学等が想定される。

【具体的な能力】

- a. 医学・看護学・公衆衛生学における専門知識・先端技術と幅広い学際的知識
- b. 国際的な視野とリーダーシップ
- c. 高い倫理観に基づいた行動

表 1. 博士課程前期 2 年の課程：養成する人材像と 3 ポリシー

養成する人材像	必要とする 具体的な能力	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
高度化しつつ複雑化する医療ニーズに応えながら、次々と新しく出現する最新医療を理解し応用できる高度医療人を育成する。	1. 医学・看護学・公衆衛生学における専門知識・先端技術と幅広い学際的知識	1. 医学・看護学・公衆衛生学に関する専門的知識と広い学際的視野に基づいて、研究者の視点で臨床現場の問題を解決し、当該分野において独創的な研究を遂行する能力を有している。	1. 国内外の最先端の医学研究成果・医療技術を学ぶ機会、様々な領域の知識を幅広く学ぶ機会、医療遂行のためのコミュニケーション能力と高度専門技術の獲得を可能にする実践の場を提供する。	医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指す医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。
	2. 国際的な視野とリーダーシップ	2. 多様性を理解し、国際的視野とコミュニケーション能力を持って世界最先端の医学・医療を理解し、世界水準を目指す研究成果を発信することができる。または、世界水準の医療技術を発揮することができる。	2. 英語教育を充実させ、国際性、多様性に満ちた修学的环境を提供する。	
	3. 高い倫理観に基づいた行動	3. 医学・医療に対する社会的ニーズを踏まえつつ、高い倫理観と強い責任感をもって、医学、看護学、公衆衛生学研究の発展に貢献することができる。	3. 医療及び研究遂行に求められる高い倫理観を育む機会を提供する。	

② ディプロマ・ポリシー

東北大学の「研究第一（主義）」「門戸開放」「実学尊重」の理念のもと、高い倫理観と豊かな人間性をもって、国際感覚をもった医療人として活躍し、社会を牽引して行くことが期待できる人材を育成することを使命とする。所定の教育課程を修め、次に掲げる目標を達成した学生に修士（医科学、看護学、公衆衛生学）の学位を授与する。

- 医学・看護学・公衆衛生学に関する専門的知識と広い学際的視野に基づいて、研究者の視点で臨床現場の問題を解決し、当該分野において独創的な研究を遂行する能力を有している。
- 多様性を理解し、国際的視野とコミュニケーション能力を持って世界最先端の医学・医療を理解し、世界水準を目指す研究成果を発信することができる、または、世界水準の医療技術を発揮することができる。
- 医学・医療に対する社会的ニーズを踏まえつつ、高い倫理観と強い責任感をもって、医学、看護学、公衆衛生学研究の発展に貢献することができる。

③ カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- 国内外の最先端の医学研究成果・医療技術を学ぶ機会、様々な領域の知識を幅広く学ぶ機会、医療遂行のためのコミュニケーション能力と高度専門技術の獲得を可能にする実践の場を提供する。
- 英語教育を充実させ、国際性、多様性に満ちた修学的环境を提供する。
- 医療及び研究遂行に求められる高い倫理観を育む機会を提供する。

上記の方針を実践するため、学際的科目（基盤科目、総合科目）、専門科目を設定し、教育課程の全体像を把握できるようカリキュラムマップを作成する。講義科目の評価は、筆記試験やレポート、授業や実習への出席状況等を総合的に勘案し、学修到達目標の達成度や習熟度について講義担当教員が評価する。成績評価方法の詳細については科目ごとにシラバスに明記する。研究成果の審査は、修士学位論文の作成に係る研究とその過程、国内外の学会や修士学位論文最終試験における研究発表の内容を基に、独自に設定した研究課題について、適切な情報収集・分析手法を用いて結論を考察し論旨を展開する能力、国内外へ研究成果を発信するためのプレゼンテーション能力等の到達度について、指導教員及び審査担当教員が評価する。

④ アドミッション・ポリシー

東北大学大学院医学系研究科は、医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進し得る、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。このため、学生の受け入れにあたっては、一般選抜及び海外在住者対象特別選抜を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行う。

博士課程前期2年の課程では、外部検定試験スコアによる英語力の評価と、専門的知識・思考能力・志望動機・適性並びに出願書類の記載内容を評価する口頭試問を行い、医学・医療の発展に貢献する研究者若しくは教育者を目指す人物を重視して選抜を行う。大学卒業生相当の英語力、志望する専攻・分野に関連する基礎的な専門知識や思考能力、志望動機的具体性や修学に相応しい適性について、本研究科が定めた基準を満たすことが必要であり、特に口頭試問の結果を重視して選抜する。なお、入学前に基本となる専門的知識や英語力を身につけておくことが望ましい。

(2) 博士課程前期2年の課程 医科学コース（表2）

① 養成する人材像

医学・医療の基礎的知識と先端技術を身につけ、医学・医療の複雑な課題に対応できる研究者や高度専門職業人を養成する。特に基礎医学、臨床医学、障害科学、保健学等の専門知識と学際的視野を併せ持ち、国際性と高い倫理観を有し、多職種連携の下で医科学研究を推進できる人材を育成する。修了後は医療機関、国内外学術研究機関、医薬品・医療機器開発企業等での活躍や、博士課程後期3年の課程や医学履修課程への進学が期待される。

【具体的な能力】

- a. 医科学の専門知識・実験技術と学際的視野

- b. 国際性と多職種連携のためのコミュニケーション能力
- c. 研究実施に必要な倫理観

表2. 博士課程前期2年の課程 医科学コース: 養成する人材像と3ポリシー

養成する人材像	必要とする 具体的な能力	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
医学・医療の基礎的知識と先端技術を身につけ、医学・医療の複雑な課題に対応できる研究者や高度専門職業人を養成する。	1. 医科学の専門知識・実験技術と学際的視野	1. 医学的専門知識・技能と豊かな学際的知識を身につけ、科学的視点から論理的な思考をすることができ、自ら課題を発見し解決して、研究成果を発表することができる。	1. 最先端の医学的知識・手法を学ぶための科目群、基礎となる幅広い知識を学際的に身につけるための科目群を開講するとともに、高度専門技術の獲得を可能にする実践の場を提供する。	医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。
	2. 国際性と多職種連携のためのコミュニケーション能力	2. 国際的視野を持ち、多様な価値観を理解・尊重、そして包摂し、他者との信頼関係を築いて協働することができる。	2. 共通科目、総合科目により、他者との信頼関係を築き、協働できる力を涵養する。英語で議論する能力を身につけるための科目や、多様な価値観を理解・尊重する能力を身につけるための科目を開講する。	
	3. 研究実施に必要な倫理観	3. 高度な倫理観を身につけた医療人として、教育・研究・医療機関等で期待される役割に応じて教育および研究を実践することができ、研究成果を社会に還元する態度を有する。	3. 倫理に関する科目群を開講し、社会における責任を自覚し倫理観に基づいて行動できる力を養成する。	

② ディプロマ・ポリシー

次に掲げる目標を達成した学生に修士（医科学）の学位を授与する。

- a. 医学的専門知識・技能と豊かな学際的知識を身につけ、科学的視点から論理的な思考をすることができ、自ら課題を発見し解決して、研究成果を発表することができる。
- b. 国際的視野を持ち、多様な価値観を理解・尊重、そして包摂し、他者との信頼関係を築いて協働することができる。
- c. 高度な倫理観を身につけた医療人として、教育・研究・医療機関等で期待される役割に応じて教育および研究を実践することができ、研究成果を社会に還元する態度を有する。

③ カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- a. 最先端の医学的知識・手法を学ぶための科目群、基礎となる幅広い知識を学際的に身につけるための科目群を開講するとともに、高度専門技術の獲得を可能にする実践の場を提供する。
- b. 基盤科目、総合科目により、他者との信頼関係を築き、協働できる力を涵養する。英語で議論する能力を身につけるための科目や、多様な価値観を理解・尊重する能力を身につけるための科目を開講する。
- c. 倫理に関する科目群を開講し、社会における責任を自覚し倫理観に基づいて行動できる力を養成する。

④ アドミッション・ポリシー

東北大学大学院医学系研究科は、医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進し得る、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す者を求める。このため、学生の受け入れにあたっては、一般選抜及び海外在住者対象特別選抜を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行う。

博士課程前期2年の課程医科学コースでは、外部検定試験スコアによる英語力の評価と、専門的知識・思考能力・志望動機・適性並びに出願書類の記載内容を評価する口頭試問を行い、医学・医療の発展に貢献する研究者若しくは教育者を目指す人物を重視して選抜を行う。大学卒業生相当の英語力、志望する専攻・分野に関連する基礎的な専門知識や思考能力、志望動機的具体性や修学に相応しい適性について、本研究科が定めた基準を満たすことが必要で、特に口頭試問の結果を重視して選抜する。なお、入学前に基本となる専門的知識や英語力を身につけておくことが望ましい。

(3) 博士課程前期2年の課程 看護学コース (表3)

① 養成する人材像

看護学の教育・研究者及び保健師・助産師、高度実践看護師の養成を行う。修了後は医療機関、保健機関、教育・研究機関等での活躍や、博士課程後期3年の課程への進学が期待される。

【具体的な能力】

- a. 深い専門的知識、看護実践能力と学際性
- b. 保健・医療・福祉における国際性とリーダーシップ
- c. 看護専門職としての倫理的判断力

② ディプロマ・ポリシー

次に掲げる目標を達成した学生に修士（看護学）の学位を授与する。なお、保健師・助産師および高度実践看護師に関しては、養成に必要なカリキュラムを編成し、修得させる。

- a. 看護学に関する深い専門的知識と看護実践能力、学際性を有し、科学的視点から看護の現象を説明することができる。看護学研究に関する十分な知識・技術を備え、看護学の発展に寄与する独創的な研究を遂行できる。
- b. 国際性やリーダーシップを育み、保健・医療・福祉の発展に貢献できる。
- c. 看護職として高い倫理観を持ち、それを個々の患者・家族のケアやチーム医療の場で発揮できる。

表3. 博士課程前期2年の課程 看護学コース: 養成する人材像と3ポリシー

養成する人材像	必要とする 具体的な能力	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
看護学の教育・研究者及び保健師・助産師、高度実践看護師の養成を行う。	1. 深い専門的知識、看護実践能力と学際性	1. 看護学に関する深い専門的知識と看護実践能力、学際性を有し、科学的視点から看護の現象を説明することができる。看護学研究に関する十分な知識・技術を備え、看護学の発展に寄与する独創的な研究を遂行できる。	1. 共通科目・総合科目・専門科目を通して最先端の看護学の知識や技術、幅広い学際的領域等を学ぶ機会を提供し、高度な看護研究を実践する能力を涵養する。また保健師・助産師・高度実践看護師の養成カリキュラムを提供する。	医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。
	2. 保健・医療・福祉における国際性とリーダーシップ	2. 国際性やリーダーシップを育み、保健・医療・福祉の発展に貢献できる。	2. 国際性、多様性にあふれた科目群を開講するとともに、コミュニケーション能力や課題解決力を涵養する修学環境を提供する。	
	3. 看護専門職としての倫理的判断力	3. 看護職として高い倫理観を持ち、それを個々の患者・家族のケアやチーム医療の場で発揮できる。	3. 生命倫理・看護倫理・研究倫理等について学ぶ機会を提供し、看護職としての高い倫理観を育む。	

③カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- 共通科目・総合科目・専門科目を通して最先端の看護学の知識や技術、幅広い学際的領域等を学ぶ機会を提供し、高度な看護研究を実践する能力を涵養する。また保健師・助産師・高度実践看護師の養成カリキュラムを提供する。
- 国際性、多様性にあふれた科目群を開講するとともに、コミュニケーション能力や課題解決力を涵養する修学環境を提供する。
- 生命倫理・看護倫理・研究倫理等について学ぶ機会を提供し、看護職としての高い倫理観を育む。

④アドミッション・ポリシー

東北大学大学院医学系研究科は、医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進し得る、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。このため、学生の受け入れにあたっては、一般選抜及び海外在住者対象特別選抜を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行う。

博士課程前期2年の課程看護学コースでは、外部検定試験スコアによる英語力の評価と、専門的知識・思考能力・志望動機・適性並びに出願書類の記載内

容を評価する口頭試問を行い、医学・医療の発展に貢献する研究者若しくは教育者をめざす人物を重視して選抜を行う。大学卒業生相当の英語力、志望する専攻・分野に関連する基礎的な専門知識や思考能力、志望動機の実体性や修学に相応しい適性について、本研究科が定めた基準を満たすことが必要で、特に口頭試問の結果を重視して選抜する。なお、入学前に基本となる専門的知識や英語力を身につけておくことが望ましい。

(4) 博士課程前期2年の課程 公衆衛生学コース (表4)

① 養成する人材像

公衆衛生学の専門知識と研究手法を習得し、人々の健康増進と疾病予防に貢献できる公衆衛生専門家を養成する。公衆衛生学修士 (Master of Public Health) を取得することを目的とする。理論の修学と研究の実施のみならず、関連する領域・組織で科学的根拠に基づいた活動を実施できる人材を養成するとともに、国際的視野と高い倫理観を有しながら社会への働きかけを通じて人々を健康に導ける人材を養成する。修了後は保健行政機関、国際機関、研究機関、医療機関、医療・薬学系企業等での活躍や、博士課程後期3年の課程や医学履修課程への進学が期待される。

【具体的な能力】

- 公衆衛生学の専門知識・分析手法能力と豊かな学際的知識
- 国際的・多領域的な連携能力
- 高い倫理観と人権意識

表4. 博士課程前期2年の課程 公衆衛生学コース: 養成する人材像と3ポリシー

養成する人材像	必要とする 具体的な能力	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
公衆衛生学の専門知識と研究手法を習得し、人々の健康増進と疾病予防に貢献できる公衆衛生専門家を養成する。	1. 公衆衛生学の専門知識・分析手法能力と豊かな学際的知識	1. 専門的知識・技能、学際的視点、バランス感覚を有し、公衆衛生に関わる問題を自ら解決できる。	1. 公衆衛生の基幹5学問分野に加え、学際性に富んだ共通科目・総合科目、EBM (Evidence-based medicine) 手法や最先端の医学研究・医療技術を学ぶ機会を提供する。	医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。
	2. 国際的・多領域的な連携能力	2. 国際的視野と優れたコミュニケーション能力を有し、多様性を尊重しながら他分野と協働できる。	2. 国際性に富んだ科目や協働性を高める科目を提供するとともに、文化多様性を涵養する。	
	3. 高い倫理観と人権意識	3. 高い倫理性と人権意識を持って次世代の医療・医学・公衆衛生を推進できる。	3. 倫理・人権教育を実施し、医学研究や医療を遂行するために必要な倫理観を育む。	

②ディプロマ・ポリシー

次に掲げる目標を達成した学生に修士 (公衆衛生学) の学位を授与する。臨床研究専門職、臨床研究管理医、遺伝カウンセラー、医療倫理学指導者、および災害保健医療マネジメントやヒューマンセキュリティを専門とするスペシャリストの養成に必要なカリキュラムを編成し、修得させる。

- 専門的知識・技能、学際的視点、バランス感覚を有し、公衆衛生に関わる問題を自ら解決できる。

- b. 国際的視野と優れたコミュニケーション能力を有し、多様性を尊重しながら他分野と協働できる。
- c. 高い倫理性と人権意識を持って次世代の医療・医学・公衆衛生を推進できる。

③カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- a. 公衆衛生の基幹5学問分野に加え、学際性に富んだ基盤科目・総合科目、EBM（Evidence-based medicine）手法や最先端の医学研究・医療技術を学ぶ機会を提供する。臨床研究専門職、臨床研究管理医、遺伝カウンセラー、医療倫理学指導者、および災害保健医療マネジメントやヒューマンセキュリティを養成するカリキュラムも提供する。
- b. 国際性に富んだ科目や協働性を高める科目を提供し、文化的多様性を涵養する。
- c. 倫理・人権教育を実施し、医学研究や医療を遂行するために必要な倫理観を育む。

④アドミッション・ポリシー

東北大学大学院医学系研究科は、医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進し得る、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。このため、学生の受け入れにあたっては、一般選抜及び海外在住者対象特別選抜に加えて特別選抜（公衆衛生学コースのみ）の枠を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行う。

博士課程前期2年の課程公衆衛生学コースでは、外部検定試験スコアによる英語力の評価と、専門的知識・思考能力・志望動機・適性並びに出願書類の記載内容を評価する口頭試問を行い、医学・医療の発展に貢献する研究者若しくは教育者を志す人物を重視して選抜を行う。大学卒業生相当の英語力、志望する専攻・分野に関連する基礎的な専門知識や思考能力、志望動機の実体性や修学に相応しい適性について、本研究科が定めた基準を満たすことが必要で、特に口頭試問の結果を重視して選抜を行う。なお、入学前に基本となる専門的知識や英語力を身につけておくことが望ましい。

(5) 博士課程後期3年の課程 課程共通（表5）

① 養成する人材像

高度化・複雑化する医療ニーズに応えながら、自ら新たな医療の方法や技術を世界水準で開発し、それを社会実装することができる医学研究者・高度医療人を育成する。そのために高度な専門的知識と学識を備えた上でその応用を可能とし、それらに関連する幅広い先端技術を身につけるだけでなく、先端技術の改良を推進できる人材を養成する。多分野と協働しながら医療現場に発展性を持って還元するのみならず、グローバルな研究者集団を巻き込んで世界レベルで社会実装できる能力を習得させる。高い倫理観を持ちつつ研究・医療の最前線で活躍しながらグローバルに研究コミュニティを牽引できる人材を育成する。修了後は医療機関、国内外学術研究機関、医薬品開発会社、大学教員、公務員等としての活躍が想定される。

【具体的な能力】

- a. 医学・看護学分野における高度な専門知識・最先端研究手法と豊かな総合知による世界水準の研究遂行能力
- b. 国際的なネットワーク構築能力
- c. 医学・医療の発展に貢献できる高い倫理観

表5. 後期3年の課程：養成する人材像と3ポリシー

養成する人材像	必要とする 具体的な能力	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
高度化し複雑化する医療ニーズに応えながら自ら新たな医療の方法や技術を世界水準で開発し、それを社会実装することができる医学研究者・高度医療人を育成する。	1. 医学・看護学分野における高度な専門知識・最先端研究手法と豊かな総合知による世界水準の研究遂行能力	1. 医学・看護学に関する専門的知識や幅広い学際的知識を有し、専門分野において自立して独創的な研究を遂行するとともに他領域を結びつけ学際的に発展させる能力を有する。	1. 国内外の最先端の医学、看護学を学ぶ機会を提供し、専門的な知識、技能の獲得を促進する。同時に研究推進に必要な学際領域の科目群を提供し、総合知を涵養する。	医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。
	2. 国際的なネットワーク構築能力	2. 高度な国際的視野とコミュニケーション能力を有し、世界水準の研究成果を発信し、それによって国内外における当該分野の研究を先導することができる。	2. 国際性、多様性、課題解決能力、コミュニケーション能力を高め、グローバルリーダーを目指すことを可能とする修学環境を提供する。	
	3. 医学・医療の発展に貢献できる高い倫理観	3. 当該分野のリーダーとして、高い倫理観を持って次世代の医学・看護学を発展させることができる。	3. 正しい研究活動を実践する倫理観を身につけるために必須となる講義科目を開講する。	

②ディプロマ・ポリシー

東北大学の「研究第一（主義）」「門戸開放」「実学尊重」の理念のもと、高い倫理観と豊かな人間性と国際感覚をもって世界水準の研究を遂行し、将来の医学・医療界を担うエリート人材を育成することを使命とする。大学院医学研究科で定める所定の教育課程を修め、次に掲げる目標を達成した学生に博士（医科学、看護学）の学位を授与する。

- a. 医学・看護学に関する専門的知識や幅広い学際的知識を有し、専門分野において自立して独創的な研究を遂行するとともに他領域を結びつけ学際的に発展させる能力を有する。
- b. 高度な国際的視野とコミュニケーション能力を有し、世界水準の研究成果を発信し、それによって国内外における当該分野の研究を先導することができる。

- c. 当該分野のリーダーとして、高い倫理観を持って次世代の医学・看護学を発展させることができる。

③カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- a. 国内外の最先端の医学・看護学を学ぶ機会を提供し、専門的な知識、技能の獲得を促進する。同時に研究推進に必要な学際領域的科目群を提供し、総合知を涵養する。
- b. 国際性、多様性、課題解決能力、コミュニケーション能力を高め、グローバルリーダーを目指すことを可能とする修学環境を提供する。
- c. 正しい研究活動を実践する倫理観を身につけるために必須となる講義科目を開講する。

上記の方針を実践するため、学際的科目（基盤科目、総合科目）、専門科目を設定し、教育課程の全体像を把握できるようカリキュラムマップを作成する。

講義科目の評価は、筆記試験やレポート、授業や実習への出席態度等を総合的に勘案し、学修到達目標の達成度や習熟度について講義担当教員が評価する。成績評価方法の詳細については科目ごとにシラバスに明記する。所属研究室における徹底した個人指導と領域横断型の複数教員指導体制の併用によるきめ細かな研究指導体制を整備し、豊かで高度な学識と専門的な知識、技能の獲得を促進する。世界水準の研究成果の発信が課程修了の条件であることを明示するとともに、博士論文に基づいて研究成果の審査を適切に行う。

④アドミッション・ポリシー

東北大学大学院医学系研究科は、医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進し得る、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。このため、学生の受け入れにあたっては、一般選抜及び海外在住者対象特別選抜を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行う。

博士課程後期3年の課程では、外部検定試験スコアによる英語力の評価と、専門的知識・思考能力・志望動機・適性並びに出願書類の記載内容を評価する口頭試問を行い、医学・医療の発展に貢献する研究者・高度専門職若しくは教育者を目指す人物を重視して選抜を行う。6年制大学卒業生あるいは修士課程修了生に相当する英語力、志望する専攻・分野に関連する基本的な高度専門知識や思考能力、具体的な志望動機、修学に相応しい適性について、本研究科が定めた基準を満たすことが必要で、特に口頭試問の結果を重視して選抜する。

なお、入学前に基本となる高度な専門的知識や英語力を身につけておくことが望ましい。

(6) 博士課程後期3年の課程 医科学コース (表6)

① 養成する人材像

医学全般における高度な専門知識と研究能力を持ち、世界水準の独創的な研究を自立して遂行できる研究者や教育者を養成する。医学の先端領域を開拓し、学際的な研究チームを牽引できる能力を持ち、国際的な研究ネットワークの中で活躍できる高い倫理観を持った人材を育成する。修了後は大学・研究機関での教育研究職、医療機関での研究指導者、企業の研究開発部門のリーダー等としての活躍が期待される。

【具体的な能力】

- 高度な専門性と広い学際的知識による独創的で世界水準の研究力
- 国際的な研究ネットワークで活躍できる優れた連携能力
- 研究遂行に求められる高い倫理観

表6. 博士課程後期3年の課程 医科学コース: 養成する人材像と3ポリシー

養成する人材像	必要とする 具体的な能力	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
医学全般における高度な専門知識と研究能力を持ち、世界水準の独創的な研究を自立して遂行できる研究者や教育者を養成する。	1. 高度な専門性と広い学際的知識による独創的で世界水準の研究力	1. 高度な医学的専門知識・技能や豊かな総合知を身につけ、次世代医療の実現に向けた社会的ニーズを踏まえつつ独創的な研究を遂行できる。	1. 研究推進に必要な専門科目や学際的科目を多く提供し、専門的な知識、技能の獲得と豊かで高度な学識を養う。	医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。
	2. 国際的な研究ネットワークで活躍できる優れた連携能力	2. 国際的視野を持ち、多様な価値観を理解・尊重して、医学研究を主体的に展開できる。また他者との信頼関係を築いて協働し、教育・研究・医療機関等で中核を担うことができる。	2. 国際的コミュニケーション能力を涵養する科目群、多様な価値観を理解・尊重する能力を身につけるための科目群を開講する。また課題解決力を高めるために、演習を重視した総合科目を開講する。	
	3. 研究遂行に求められる高い倫理観	3. 高度な倫理観を身につけた医学研究者・医療人として、医療・福祉の発展に貢献することができる。	3. 正しい研究活動を実践する倫理観を身につけるために必須となる講義科目群を開講する。社会における責任を自覚し、倫理観に基づいて行動できる力を養成する。	

② ディプロマ・ポリシー

次に掲げる目標を達成した学生に博士（医科学）の学位を授与する。

- 高度な医学的専門知識・技能や豊かな総合知を身につけ、次世代医療の実現に向けた社会的ニーズを踏まえつつ独創的な研究を遂行できる。
- 国際的視野を持ち、多様な価値観を理解・尊重して、医学研究を主体的に展開できる。また他者との信頼関係を築いて協働し、教育・研究・医療機関等で中核を担うことができる。
- 高度な倫理観を身につけた医学研究者・医療人として、医療・福祉の発展に貢献することができる。

③ カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- a. 研究推進に必要な専門科目や学際的科目を多く提供し、専門的な知識、技能の獲得と豊かで高度な学識を養う。
- b. 国際的コミュニケーション能力を涵養する科目群、多様な価値観を理解・尊重する能力を身につけるための科目群を開講する。また課題解決力を高めるために、演習を重視した総合科目を開講する。
- c. 正しい研究活動を実践する倫理観を身につけるために必須となる講義科目群を開講する。社会における責任を自覚し、倫理観に基づいて行動できる力を養成する。

④ アドミッション・ポリシー

東北大学大学院医学系研究科は、医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進し得る、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。このため、学生の受け入れにあたっては、一般選抜及び海外在住者対象特別選抜を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行う。

博士課程後期3年の課程医科学コースでは、外部検定試験スコアによる英語力の評価と、専門的知識・思考能力・志望動機・適性並びに出願書類の記載内容を評価する口頭試問を行い、医学・医療の発展に貢献する研究者・高度専門職若しくは教育者を目指す人物を重視して選抜を行う。6年制大学卒業生あるいは修士課程修了生に相当する英語力、志望する専攻・分野に関連する基本的な高度専門知識や思考能力、具体的な志望動機、修学に相応しい適性について、本研究科が定めた基準を満たすことが必要で、特に口頭試問の結果を重視して選抜する。なお、入学前に基本となる高度な専門的知識や英語力を身につけておくことは望ましい。

(7) 博士課程後期3年の課程 看護学コース (表7)

① 養成する人材像

看護学分野における高度な専門知識と研究能力を持ち、看護学の発展に寄与する世界水準かつ独創的な研究を自立して遂行できる研究者や教育者を養成する。看護実践の科学的基盤を構築し、高い倫理観を持ちつつ国際的な視野で看護研究・看護教育を牽引する人材を養成する。修了後は看護系大学・研究機関での教育研究職、医療機関での教育・研究者、国際機関等での活躍が期待される。

【具体的な能力】

- 高度な専門的知識と豊かな学際性を有し、看護学分野の発展に寄与する独創的な研究を自立して遂行できる能力
- 国際的な視野を有し、多分野と協働しながら次世代の看護学をリードできる能力
- 看護学の研究・教育・実践に必要な高い倫理観

表7. 博士課程後期3年の課程 看護学コース: 養成する人材像と3ポリシー

養成する人材像	必要とする 具体的な能力	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
看護学分野における高度な専門知識と研究能力を持ち、看護学の発展に寄与する世界水準かつ独創的な研究を自立して遂行できる研究者や教育者を養成する。看護実践の科学的基盤を構築し、高い倫理観を持ちつつ国際的な視野で看護研究・看護教育を牽引する人材を養成する。	1. 高度な専門的知識と豊かな学際性を有し、看護学分野の発展に寄与する独創的な研究を自立して遂行できる能力	1. 高度な看護学的専門性と豊かな総合知を身につけ、看護学の発展に寄与する独創的な研究を自立して遂行できる。	1. 学際的科目（基盤科目・総合科目）や専門科目を多く開講し、世界水準の独創的な看護学研究を自立的に実施するための知識・技術を学ぶ機会を広く提供する。	医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。
	2. 国際的な視野を有し、多分野と協働しながら次世代の看護学をリードできる能力	2. 看護学研究や実践において、国際的にリーダーシップを発揮できる能力を有する。また多分野・多職種と連携しながら看護学の発展に寄与できる。	2. 国際的な視点を高める科目群や、多様な価値観を身につけコミュニケーション能力を高める科目群を提供する。	
	3. 看護学の研究・教育・実践に必要な高い倫理観	3. 高度な倫理観を持ち、看護学研究や看護学教育に取り組む能力を有する。	3. 研究者・教育者として必要な高度な倫理観を養う。	

② ディプロマ・ポリシー

次に掲げる目標を達成した学生に博士（看護学）の学位を授与する。

- 高度な看護学的専門性と豊かな総合知を身につけ、看護学の発展に寄与する独創的な研究を自立して遂行できる。
- 看護学研究や実践において、国際的にリーダーシップを発揮できる能力を有する。また多分野・多職種と連携しながら看護学の発展に寄与できる。
- 高度な倫理観を持ち、看護学研究や看護学教育に取り組む能力を有する。

③ カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- 学際的科目（基盤科目・総合科目）とともに専門科目も多く開講し、世界水準の独創的な看護学研究を自立的に実施するための知識・技術を学ぶ機会を広く提供する。
- 国際的な視点を高める科目群や、多様な価値観を身につけコミュニケーション能力を高める科目群を提供する。
- 研究者・教育者として必要な高度な倫理観を養う。

④ アドミッション・ポリシー

東北大学大学院医学系研究科は、医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進し得る、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。このため、学生の受け入れにあたっては、一般選抜及び海外在住者対象特別選抜を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行なう。

博士課程後期3年の課程看護学コースでは、外部検定試験スコアによる英語力の評価と、専門的知識・思考能力・志望動機・適性並びに出願書類の記載内容を評価する口頭試問を行い、医学・医療の発展に貢献する研究者・高度専門職若しくは教育者を目指す人物を重視して選抜を行う。6年制大学卒業生あるいは修士課程修了生に相当する英語力、志望する専攻・分野に関連する基本的な高度専門知識や思考能力、具体的な志望動機、修学に相応しい適性について、本研究科が定めた基準を満たすことが必要で、特に口頭試問の結果を重視して選抜する。なお、入学前に基本となる高度な専門的知識や英語力を身につけておくことが望ましい。

(8) 医学履修課程 (表8)

① 養成する人材像

医学・医療における最先端の専門的知識を身につけ、未知未踏の課題に取り組む強い意欲を持って世界で活躍する基礎医学研究者や真のフィジシャン・サイエンティストを養成する。豊かな学識・教養、高度な専門的知識、総合知を活用して医学・医療を学際的に発展させる能力を有し、自立して独創的な研究を遂行・指導することができ、社会的ニーズを俯瞰的視野で踏まえつつ、高い倫理観と強い責任感を持って医療・医学の発展に貢献し、高度な国際的視野とコミュニケーション力で世界の研究を先導する人材を育成する。修了後は医療機関・国際機関における医療のエリート人材、一流大学・研究機関における研究・教育部門のリーダー等としての活躍が期待される。

【具体的な能力】

- a. 医学・医療における最先端の専門知識・研究手法の習得と総合知を生かした独創的な研究能力
- b. 医学研究・医療実践における国際的リーダーシップと高いコミュニケーション能力
- c. 高い倫理観と社会的責任感に基づく研究推進能力

② ディプロマ・ポリシー

表8. 医学履修課程：養成する人材像と3ポリシー

養成する人材像	必要とする 具体的な能力	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
医学・医療における最先端の専門的知識を身につけ、未知未踏の課題に取り組む強い意欲を持って世界で活躍する基礎医学研究者や真のフィジシャン・サイエンティストを養成する。	1. 医学・医療における最先端の専門知識・研究手法の習得と総合知を生かした独創的な研究能力 2. 医学研究・医療実践における国際的リーダーシップと高いコミュニケーション能力 3. 高い倫理観と社会的責任感に基づく研究推進能力	1. 専門分野における高い知識・技術や豊かな総合知を活用しながら、独創的な研究を他領域と結びつけて遂行・指導することができる。 2. 高度な国際的視野とコミュニケーション能力を有し、世界水準の研究成果を発信し、それによって国内外における当該分野の研究を先導することができる。 3. 次世代医療の実現に向けた社会的ニーズを踏まえつつ、高い倫理観と強い責任感をもって学問を推進し、当該分野のリーダーとして医学・医療の発展に貢献することができる。	1. 国内外の最先端の医学知識・医療技術を学ぶ科目群、領域横断的に知識を学び総合知を育む科目群を提供し、専門性と学際性を涵養する。 2. 国際的視野を高める機会、多様性への理解を深める機会、高度なコミュニケーション能力を養成する機会を提供し、強いリーダーシップを涵養する。 3. 医療及び研究遂行に求められる高い倫理観を育む科目を提供する。	医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。

東北大学の「研究第一（主義）」「門戸開放」「実学尊重」の理念のもと、高い倫理観と豊かな人間性と国際感覚をもって世界水準の医学・医療を実践し、次世代を担うエリート人材を育成することを使命とする。大学院医学研究科で定める所定の教育課程を修め、次に掲げる目標を達成した学生に博士（医学）の学位を授与する。

- 専門分野における高い知識・技術や豊かな総合知を活用しながら、独創的な研究を他領域と結びつけて遂行・指導することができる。
- 高度な国際的視野とコミュニケーション能力を有し、世界水準の研究成果を発信し、それによって国内外における当該分野の研究を先導することができる。
- 次世代医療の実現に向けた社会的ニーズを踏まえつつ、高い倫理観と強い責任感をもって学問を推進し、当該分野のリーダーとして医学・医療の発展に貢献することができる。

③ カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- 国内外の最先端の医学知識・医療技術を学ぶ科目群、領域横断的に知識を学び総合知を育む科目群を提供し、専門性と学際性を涵養する。
- 国際的視野を高める機会、多様性への理解を深める機会、高度なコミュニケーション能力を養成する機会を提供し、強いリーダーシップを涵養する。
- 医療及び研究遂行に求められる高い倫理観を育む科目を提供する。

上記の方針を実践するため、学際的科目（基盤科目、総合科目）、専門科目を設定し、教育課程の全体像を把握できるようカリキュラムマップを作成する。

講義形式の科目は、医学・医療に関する高度な専門知識や技能を修得させることを目的とし、eラーニングシステムの併用により社会人学生等の時間的制約がある学生に対しても統一した学修機会を提供する。最先端の医学研究成果・医療技術に関する研究論文や報告事例を用いた演習や討論を通じて、研究課題を学際的に発展させ、次世代医療・医学の発展に資する新たな研究を推進する能力を養成する。また実際の医療装置等を用いた臨床現場での実地研修を通じて、各医療分野における高度専門技術を修得する他、分野横断的な学生交流を積極的に取り入れることで医療遂行のための高度なコミュニケーション能力を養成する。博士論文研究は、独自の課題に関する研究活動と博士学位論文の執筆を通じて、世界水準を目指す研究成果を発信するために必要な研究遂行能力や当該分野の研究を先導するに足る実践力を養成する。

④ アドミSSION・ポリシー

東北大学大学院医学系研究科は、医学系領域に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観を有し、先進的、学際的及び創造的に医学系領域に関する諸問題の解決を具体的に推進し得る、国際的に通用する優れた研究者、高度職業人の育成を目指す。具体的には、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、日本及び世界の人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し医学系領域の新たな発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人を求める。このため、学生の受け入れにあたっては、一般選抜、社会人特別選抜(医学履修課程のみ)及び海外在住者対象特別選抜を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行う。

医学履修課程では、外部検定試験スコアによる英語力の評価と、専門的知識・思考能力・志望動機・適性並びに出願書類の記載内容を評価する口頭試問を行い、医学・医療領域において自立して研究活動を行い、又は専門的な業務に従事するために必要な高度な研究能力を備えた医学研究者を目指す者を重視して選抜を行う。6年制大学卒業生あるいは修士課程修了生に相当する英語力、志望する専攻・分野に関連する基本的な高度専門知識や思考能力、具体的な志望動機、修学に相応しい適性について、本研究科が定めた基準を満たすことが必要で、特に口頭試問の結果を重視して選抜する。なお、入学前に基本となる高度な専門的知識や英語力を身につけておくことが望ましい。

2. 研究科・専攻等の名称及び学位の名称

1) 専攻の名称と特色

専攻名は「総合医学専攻」（英語名称：Major of Integrated Medicine）とする。

総合医学専攻は、医学・医療全域（基礎医学、臨床医学、障害科学、公衆衛生学、看護学・保健学等）を対象とし、社会的ニーズの高い医学的課題に対する先進的な専門研究と分野融合的な研究・教育を展開する。医療の高度化に伴う知識の増大・深遠化に対応し、学際的連携を前提とした包括的教育を実施する。基盤科目、総合科目、専門科目の3区分による体系的な教育を行い、全大学院学生が基盤科目・総合科目を共有することで分野横断的な学際教育を実現する。

なお、専攻の名称については、既に名古屋大学大学院医学系研究科において、領域融合型教育研究の推進を目的とした「総合医学専攻」（英語名称：Department of Integrated Medicine）が設置されているところであるが、本研究科の専攻再編においても、医学・医療全域をカバーした専門研究と分野融合的研究・教育の実現を目的としていることから、専攻名称を「総合医学専攻」とする。

2) 学位の専門分野の決定時期及び方法

総合医学専攻は、医学研究における専門性と学際性を両立させた教育・研究を行うことから、中心となる専門分野を学生に選択させるコース制を採用している。コースの選択は、入学試験の出願時に志望するコース・分野を申請し、合格及び入学時点で所属コース・配属分野が決定する。大学院修了者に授与する学位に付記する専門分野の名称は、所属コース毎に定めており、本人の学修状況及び研究成果をまとめた学位論文の内容に基づき、学位審査時に最終決定する。

3) 課程ごとに置くコースと授与学位

(1) 博士課程前期2年の課程

① 医科学コース（Medical Science Course）

- **概要：**医学・医療全般を広く研究対象とし、医学・医療を推進する研究者や高度専門医療人を養成する。多様な学問領域が一体となった多面的な融合教育も促進する。現行の医科学専攻修士課程（学位：医科学）、障害科学専攻（学位：障害科学）、保健学専攻放射線技術科学コース及び検査技術科学コース（学位：保健学）の各学問領域を包括しながら専門性を融合的に発展させる。
- **授与学位：**修士（医科学）（Master of Medical Sciences）

② 看護学コース（Nursing Course）

- **概要：**「人をケアする」ことのすべてについて、科学的に研究する看護学を研究対象とし、高齢化や高度先進医療の発展に対応した看護学の高

度かつ実践的な教育研究を行う。看護学講座に属する分野が主に担当する。現在の保健学専攻看護学コースを継承発展させるもので、国家資格である専門看護師、保健師、助産師を取得するコースでもある。

- 授与学位：修士（看護学）（Master of Nursing）

③ 公衆衛生学コース（Public Health Course）

- 概要：健康や疾病に関する社会的な問題を探求する公衆衛生学を対象とし、健康を支える情報のあり方に関する教育研究や健康を支える公共のあり方に関する教育研究を行う。社会医学講座に属する分野を中心に公衆衛生学修士（MPH）を養成するコースで、現在の公衆衛生学専攻修士課程を継承発展させる。
- 授与学位：修士（公衆衛生学）（Master of Public Health）

（2）博士課程後期 3 年の課程

① 医科学コース（Medical Science Course）

- 概要：医学・医療全般を広く研究対象とし、最先端の専門知識・技術と総合的知識を持ち、世界水準の独創的研究を遂行できる研究者を育成する。医科学に関するあらゆる領域の専門的知識と研究技術の獲得とその学際的応用を促進させ、国際的な視野に立って高い目的意識とリーダーシップを育てる。
- 授与学位：博士（医科学）（Doctor of Philosophy (Medical Sciences)）

② 看護学コース（Nursing Course）

- 概要：看護学の高度かつ実践的な教育研究を行い、看護学分野における研究者・教育者を養成する。平成 21 年度以降に学生受け入れを開始した国立大学の看護系博士課程では全て看護学の学位を授与しており、社会的ニーズを考慮して再編後も看護学の学位とする。
- 授与学位：博士（看護学）（Doctor of Philosophy (Nursing)）

（3）医学履修課程

- 概要：医学・医療全般を広く研究対象とし、最先端の専門的研究を展開する。研究領域は医科学コースと同様であるが、主に医師を対象とした研究医養成を行う。医学部医学科卒業後あるいは修士課程修了後の 4 年の課程で、現行の医科学専攻医学履修課程を継承発展させる。豊かな学識・教養、高度な専門的知識、総合知を活用して医学・医療を学際的に発展させる能力を有する研究者を養成する。
- 授与学位：博士（医学）（Doctor of Philosophy (Medicine)）

4) 学位名称の妥当性

（1）修士（医科学）・博士（医科学）

医学研究を最も広くカバーする名称であり、複数の学問領域を統合した総合的な医科学教育を行うという本専攻の理念にも合致している。

今回新たに博士課程後期 3 年の課程に博士（医科学）を設置するが、その英語名称の Doctor of Philosophy（Medical Sciences）は英国ケンブリッジ大学（PhD in Medical Science）等で広く用いられており、国際通用性が高い。

（２）修士（看護学）・博士（看護学）

国立大学の看護系博士課程では一般的に「看護学」の学位を授与しており、国際的な通用性と専門性の明確化の観点から妥当である。

（３）修士（公衆衛生学）

MPHは公衆衛生のプロフェッショナルとして国際的に広く普及しており、公衆衛生大学院プログラム校連絡会議（2019 年）においても専門職輩出の重要性が確認されている。現在公衆衛生学専攻設置大学院の全てで公衆衛生学の学位を授与しており、国際的な通用性と専門性の明確化の観点から妥当である。

（４）博士（医学）

医師を中心とした医学系大学院博士課程（４年の課程）の学位名として一般的であり、研究医・医学研究者としての専門性を明確に示すものである。

今回英語名称は Doctor of Philosophy（Medicine）を用いる。これはケンブリッジ大学（PhD in Medicine）と同様の英語名称で、博士（医科学）：Doctor of Philosophy（Medical Sciences）と対になる名称として、国際的に広く認知されている。

3. 教育課程の編成の考え方及び特色

1) 教育課程編成の考え方

本研究科の教育課程編成の中核となる考え方は、特定の専門分野を探究する深さと、医学・医療に関連する周辺領域を融合できる学際的思考を両立させることにある。各課程の教育課程編成は以下のとおりである。

(1) 博士課程前期2年の課程

博士課程前期2年の課程では、医学・医療の基礎的知識と先端技術を身につけ、医学・医療の複雑な課題に対応できる研究者や高度専門職業人を養成する。分野横断的な学際的思考を土台に、掘って立つ専門性を習得するために、博士課程前期2年の課程の教育課程は、「基盤科目」「総合科目」「専門科目」という科目区分で構成される。

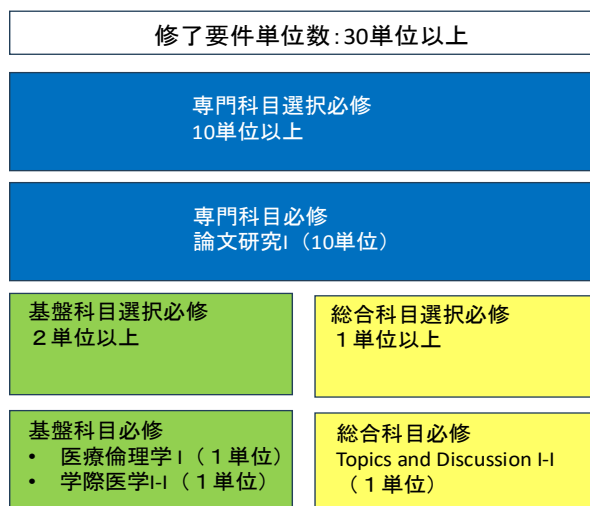
「基盤科目」は研究の土台となる知識を幅広く身につけ学際的視点と総合知の基盤を形成するものである。全体で15科目開講し、「医療倫理学 I」「学際医学 I-I」を必修科目として開設する一方、「医学教養」「医学ダイバーシティ I」「Meet the Professor I-I, I-II」などを選択必修科目として設ける。また、「東北大学大学院共通科目」の履修を可能とし、2単位まで修了要件単位にふくめることができることとする。これらにより生命倫理観、学際的視点、研究基礎力、国際的視野を育成する。「東北大学大学院共通科目」は、本学があらゆる境界を越え創造的で活力のある研究者・高度専門人材を育成するために開設しているもので、「AI」「融合領域研究合同講義」「学際研究特別講義」等文理横断的で幅広い科目が開設されている。この「東北大学大学院共通科目」の履修を可能とすることで、学際性や総合知を涵養する土台が一段と強化される。

「総合科目」は社会課題解決のための実践力を身につける学生参加型双方向性授業で、20科目で構成される。必修科目として完全英語の小グループ討論を行う「Topics and Discussion I-I」を置き、その他「医学AI演習 I-I, I-II」「アントレプレナーシップ I」「ネットワーキング演習 I」「メンタルヘルスケア I」「医学日本語 I」「プレゼンテーション・情報倫理 I」「研究倫理・研究インテグリティ I」などを選択必修科目として設ける。これらにより国際的議論力、倫理感、社会課題解決力、多様性理解を育成する。

専門科目は、現在4専攻で行われている各領域の専門科目を新しいコースごとに再配置した上で、更に高度な専門知識・技術、研究実践力を育成する。専門科目は195科目を開講し、コース共通：3科目、医科学コース：79科目、看護学コース：68科目、公衆衛生学コース：45科目に区分される。「論文研究 I」は必修のコース共通科目である。「先進医学ゼミ I-I, I-II」は様々な領域の先進的な医学・医療をゼミ形式で学ぶ。看護学コースや公衆衛生学コースでは国家資格取得のために修得すべき科目が十分に含まれている。専門科目はコース区分に関わらず履修可能である。図4に博士課程前期2年の課程のカリキュラム・ツリーを示す。

図4. 博士課程前期2年の課程のカリキュラム・ツリー

医学・医療の基礎的知識と先端技術を身につけ、医学・医療の複雑な課題に対応できる研究者や高度専門職業人を養成



総合医学専攻では全課程・コースにおいてカリキュラム・ポリシーの中核は「専門性・学際性」「国際性・多様性・協働性」「倫理性」である。表9に博士課程前期2年の課程で開講される主な科目とカリキュラム・ポリシーとの関係を示す。博士課程前期2年の課程の科目表を表10（別添）に載せる。

表9-1. 前期2年の課程：主な開講科目とカリキュラム・ポリシー①

区 分	開講科目 (◎赤字は必修科目)	概要	カリキュラム・ポリシー (該当番号)
基盤科目	◎医療倫理学I	医学・医療において必要な倫理を学ぶ	3(倫理性)
	◎学際医学I-I, I-II	医学・医療及び関連する周辺学問領域を理解する	1(学際性)
	医学教養	学内他部局の支援を得て、「学際医学I-I, I-II」より広く文理融合的教養を学ぶ	1(学際性)
	Meet the Professor I-I, I-II	世界の大学とオンラインで結び、幅広いトピックスで知識や考え方を学ぶ	2(国際性)
総合科目	◎Topics and Discussion I-I ~ I-VIII	毎回異なる医学トピックスに対し、完全英語での小グループ討論を行う	2(国際性)
	ネットワーキング演習I	協働性を高めるために、様々な教官とともにネットワーキング力を養う	2(多様性)
	メンタルヘルスクエアI	メンタルヘルスクエアの重要性を理解し、コーチング的思考を身につける	2(多様性)
	医学AI演習I-I, I-II	留学生が日本で医学研究を行ううえで必要な日本語でのコミュニケーション力を養成する	1(学際性)
	プレゼンテーション・情報倫理I	研究成果を社会に正しく強く発信できるように、高い倫理性を持った情報発信能力を身につける	3(倫理性)

基盤科目・総合科目は学際性に富んだ様々なテーマを扱う。

表9-2. 前期2年の課程：主な開講科目とカリキュラム・ポリシー②

区 分		開講科目 (◎赤字は必修科目)	概要	カリキュラム・ポリシー (該当番号)
専 門 科 目	コース共通	◎論文研究I	研究課題から研究計画を立案し、実施して研究論文を作成する	1(専門性)
	医科学コース	基礎医学I, II	人体解剖や病気の成り立ちを理解する	1(専門性)
		臨床障害学	障害科学の意義を理解し、臨床障害学の現状を学ぶ	1(専門性)
		検査医科学 I, II	基礎・臨床検査学の現状から、分子遺伝学・ゲノム科学の臨床検査学への応用に至るまでを学ぶ	1(専門性)
	看護学コース	看護学研究方法論	看護学に関する研究を理解する上で必須となる基礎知識を習得する	1(専門性)
		Academic Skills in Nursing I, II	研究を実施するための基本的な能力について講義と演習を通して理解し修得する	1(専門性)
	公衆衛生学コース	医療管理学	医療を取り巻く制度について概観し、国際比較を通じて我が国の医療の諸問題について理解する	1(専門性)
		環境医学	社会・環境医学の基本概論や最新の話題を提供する	1(専門性)

- ・現在4専攻で行われている各領域の専門科目は、コースごとの専門科目に再配置した上で、更に高度な専門教育を発展させる。専門科目は「コース共通」「医科学コース」「看護学コース」「公衆衛生学コース」に区分される。
- ・看護学コースや公衆衛生学コースでは国家資格取得のために習得すべき科目が十分に含まれている。

(2) 博士課程後期3年の課程

博士課程後期3年の課程では、高度化・複雑化する医療ニーズに応えながら、自ら新たな医療の方法や技術を世界水準で開発し、それを社会実装することができる医学研究者・高度医療人を育成する。そのため教育課程は、博士課程前期2年の課程と同様に、「基盤科目」「総合科目」「専門科目」という科目区分で構成される。図5に博士課程後期3年の課程のカリキュラム・ツリーを、表11に開講される主な科目とカリキュラム・ポリシーとの関係を、表12(別添)に博士課程後期3年の課程の科目表を載せる。

図5. 博士課程後期3年の課程のカリキュラム・ツリー

高度化・複雑化する医療ニーズに応えながら、自ら新たな医療の方法や技術を世界水準で開発し、それを社会実装することができる医学研究者・高度医療人を養成

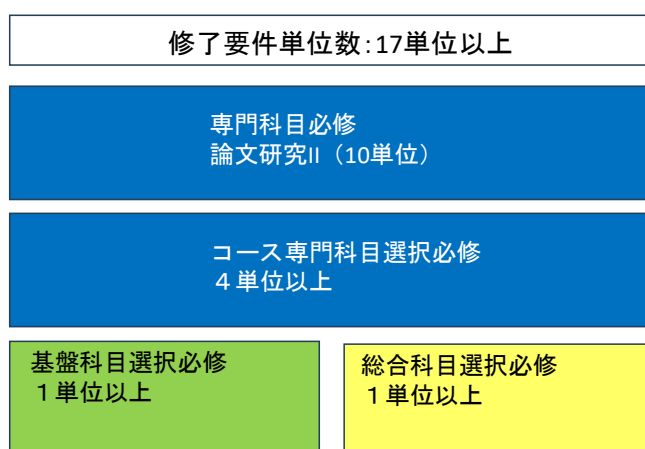


表11. 後期3年の課程: 主な開講科目とカリキュラム・ポリシー

区 分		開講科目	概要	カリキュラム・ポリシー(該当番号)
基盤科目		医療倫理学Ⅱ	医学・医療において必要な倫理を学ぶ	3(倫理性)
		学際医学Ⅱ-I,Ⅱ-II	医学・医療及び関連する周辺学問領域を理解する	1(学際性)
		医学ダイバーシティⅡ	ダイバーシティの理解を深め、医学と社会科学の知を融合させる	2(多様性)
		研究推進・研究倫理ゼミ	医学研究者が必要な技術を広く習得すると同時に、社会から求められる倫理規範を学ぶ	3(倫理性)
総合科目		アントレプレナーシップⅡ	成果を社会に還元するための「起業」に必要な精神や行動様式を身につける	2(多様性)
		医学AI演習Ⅱ-I,Ⅱ-II	医療分野における人工知能の役割とその基盤技術である機械学習の基本概念・技術について学ぶ	1(専門性)
		医学イノベーション創出	産学連携を行うに必要な知識、倫理、精神を身につける	2(多様性)
専門科目	コース共通	先進医学ゼミⅡ-I～Ⅱ-III	様々な領域の先進的な医学・医療をゼミ形式で学ぶ	1(専門性)
	医科学コース	感染症とヒューマンセキュリティ/アドバンス感染症	感染症アウトブレイクに関し、ケーススタディなどを通して、国際的な対応に関する演習を行う(英語授業)	1(専門性)
	看護学コース	基礎・健康開発看護学セミナーⅠ-I,Ⅰ-II	看護学研究を発展的に行うために、学生自らデータの分析解釈を行うことのできる能力を獲得する	1(専門性)

「基盤科目」は 17 科目、「総合科目」は 21 科目を開講し、高度医療系職業人養成の観点、基盤科目においても「研究推進・研究倫理ゼミ」、総合科目に「医薬開発」「医学イノベーション創出」などの科目を配置し、社会実装力の強化を図る。専門科目は 25 科目（コース共通 4 科目、医科学コース 17 科目、看護学コース 4 科目）で、現在の 4 専攻体制のもと行われている各領域の専門科目をもとに構成しており、現在行われている高度な専門教育を継承発展する。学生の多様な背景や目的に応えるために、必修科目は専門科目（コース共通）「論文研究Ⅱ」のみとし、他の基盤科目、総合科目、専門科目は選択必修科目とする。専門科目は、所属するコースの専門科目から 4 単位以上を選択必修とするものの、科目の履修自体はコース区分に関わらず可能である。

この教育課程編成は、学際性・国際性・高度専門性を備えた人材を育成するという本専攻の目的を実現するためのものであり、政府・産業界・学術界からの要請に応えるものである。

(3) 医学履修課程

医学履修課程では、医学・医療における最先端の専門的知識を身につけ、未知未踏の課題に取り組む強い意欲を持って世界で活躍する基礎医学研究者や真のフィジシャン・サイエンティストを養成する。そのため教育課程は、他の課程と同様に、「基盤科目」「総合科目」「専門科目」という科目区分で構成される。図 6 に医学履修課程のカリキュラム・ツリーを、医学履修課程に開講される主な科目とカリキュラム・ポリシーとの関係を表 13 に示し、医学履修課程の科目表を表 14（別添）に載せる。博士課程後期 3 年の課程の科目内容を含みつつ、課程の理念を実現しうる高度専門性を備えた人材を育成する。

図6. 医学履修課程のカリキュラム・ツリー

医学・医療における最先端の専門的知識を身につけ、
未知未踏の課題に取り組む強い意欲を持って世界で
活躍する基礎医学研究者や真のフィジシャン・サイ
エンティストを養成

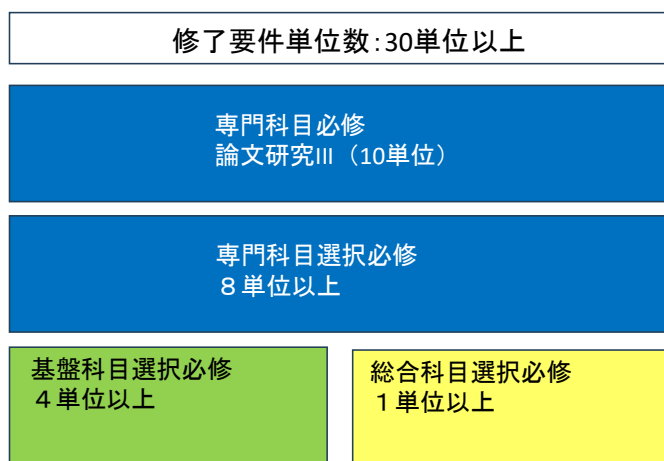


表13. 医学履修課程: 主な開講科目とカリキュラム・ポリシー

区 分	開講科目	概要	カリキュラム・ポリシー(該当番号)
基盤科目	医療倫理学Ⅱ	医学・医療において必要な倫理を学ぶ。	3(倫理性)
	研究推進・研究倫理ゼミ	医学研究者が必要な技術を広く習得すると同時に、社会から求められる倫理規範を学ぶ。	3(倫理性)
総合科目	医薬開発	医薬開発を目指した基礎研究、質のよい臨床試験を実践するための、基礎知識、倫理、方策を学ぶ。	2(多様性)
	医学AI演習Ⅱ-I, Ⅱ-II	医療分野における人工知能の役割とその基盤技術である機械学習の基本概念・技術について学ぶ。	1(専門性)
	医学イノベーション創出	産学連携を行うに必要な知識、倫理、精神を身につける。	2(多様性)
	研究倫理・研究インテグリティⅡ	研究倫理に関する課題について演習形式で取り組み、研究の健全性、公正性を遵守する実践力を高める。	3(倫理性)
専門科目	先進医学ゼミⅡ-I～Ⅱ-IV	様々な領域の先進的な医学・医療をゼミ形式で学ぶ。	1(専門性)
	医療機器トレーニング	医療機器を理解し開発するために、医療機器仕組みや使用方法について理解する。	1(専門性)
	国際交流セミナーⅠ～Ⅳ	国際的にすぐれた研究者のセミナーに参加し、知識の涵養と研究推進に求められる思考法を学ぶ。	2(国際性)

「基盤科目」は17科目、「総合科目」は21科目で、博士課程後期3年の課程と同様の領域科目を開講する。「専門科目」は82科目開講し、「先進医学ゼミⅡ-I～Ⅱ-IV」や、「医療機器トレーニング」「連携機関トレーニングⅠ～Ⅲ」「国際交流セミナーⅠ～Ⅳ」「がん医科学セミナー」「保健医療福祉情報学」「医学AIトレーニングⅠ～Ⅳ」などが開講され、各領域の専門科目が充実している。学生の多様な背景や目的に応えるために、必修科目は専門科目「論文研究Ⅱ」のみとし、他の基盤科目、総合科目、専門科目は選択必修科目とする。

2) 各教育課程共通の教育方法の特色

総合医学専攻では、以下の教育方法の特色により、学際性・国際性・高度専門性を備えた人材を育成する：

(1) 総合科目の新設

総合科目は社会課題解決のための実践力を養成する学生参加型双方向性授業であり、現行の専攻体制では対処困難だった学際的教育を実現するものである。

(2) 複数教員授業の導入

学際医学知識の涵養と多職種チーム医療を担う総合力の育成を図るため、全科目区分において複数教員授業を導入する。

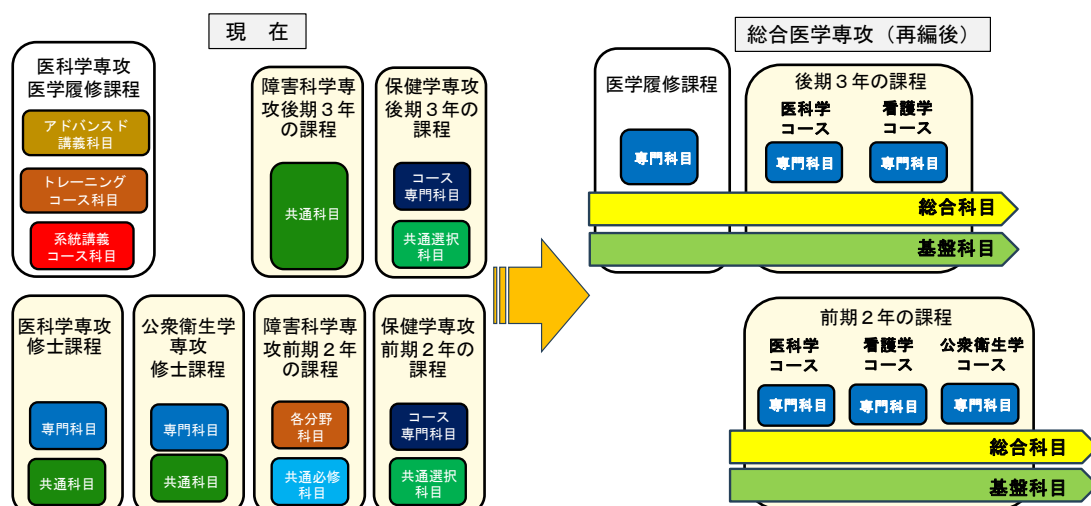
(3) 国際性・多様性の涵養

完全英語科目の充実、国際活動の促進と単位化、多様性教育の強化により、国際的に活躍できる人材を育成する。特に「Meet the Professor I -I, I-II」「医学ダイバーシティ I」「メンタルヘルスケア I」などの新設科目や「Topics and Discussion I -I」の必修化は、国際性・多様性の強化に大きく寄与する。

(4) 科目体系の共通化

図7で示すように、現行では専攻ごとに異なる科目体系であるが、これを整理し、全課程で「基盤科目」「総合科目」「専門科目」に統一する。これにより、教員の負担軽減と学生の混乱防止が図られ、教育理念実現に向けた体系的で効果的なカリキュラムが構築できる。

図7. 統一性のある教育課程



- ・専攻間、課程間で独自であった科目体系を「基盤科目」「総合科目」「専門科目」に統一
- ・専門科目は課程内共通。医学履修課程の専門科目は、後期3年の課程の専門科目を含む

(5) 複数教員指導制度

1人の大学院学生に対し、前期2年の課程においては指導教授、アドバイザー教員（所属分野外）の2名、後期3年の課程においては指導教授、アドバイザー教員1（研究指導担当）、アドバイザー教員2（所属分野外）の3名の教員が指導する体制とする。再編後は学際的科目の増加により、アドバイザー教員の実効性が向上し、異分野間の研究交流促進と多面的な研究能力養成が期待できる。

（6）東北大学病院及び東北医療圏との連携強化

臨床教育の充実と高度専門医療人の実践能力向上を図るため、東北医療圏の病院との協力による研修機会を拡充する。

これらの教育方法は、学際性・国際性・高度専門性を備えた人材を育成するという本専攻の目的を実現するためのものであり、政府・産業界・学術界からの要請に応えるものである。

3）学生の受け入れ時期に応じた教育課程について

全課程とも年2回（4月・10月）の入学機会を設ける。開講する授業は原則として4月入学者用、10月入学者用の区別はせず、定員は設けない。10月入学者も標準修業年限内に修了できるように配慮し、教育効果を損なうことがないよう体系的な教育課程の構築と研究指導を行う。

各課程における入学者用の時間割のモデルは表15のとおりである。なお、各科目の配当年次については『教育課程の概要』に詳細する。

表15. 各課程における時間割

① 前期2年の課程

【4月入学者時間割】

年次	1 年次		2 年次	
学期	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)
基盤科目必修	医療倫理学I 学際医学I-I			
総合科目必修	Topics and Discussion I-I			
専門科目必修			論文研究I	
選択必修	研究の進捗に応じて、1～2年次に履修			

【10月入学者時間割】

年次	1年次		2年次	
学期	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)	後期 (10～3月)
基盤科目必修	医療倫理学I 学際医学I-I			
総合科目必修	Topics and Discussion I-I			
専門科目必修			論文研究I	
選択必修	研究の進捗に応じて、1～2年次に履修			

② 後期3年の課程

【4月入学者時間割】

年次	1年次		2年次		3年次	
学期	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)
基盤科目	研究の進捗に応じて、1～3年次に履修					
総合科目	研究の進捗に応じて、1～3年次に履修					
専門科目必修					論文研究II	
専門科目選択必修	研究の進捗に応じて、1～3年次に履修					

【10月入学者時間割】

年次	1 年次		2 年次		3 年次	
学期	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)
基盤科目	研究の進捗に応じて、1～3 年次に履修					
総合科目	研究の進捗に応じて、1～3 年次に履修					
専門科目必修					論文研究II	
専門科目選択必修	研究の進捗に応じて、1～3 年次に履修					

③ 医学履修課程

【4月入学者時間割】

年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
学期	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)
基盤科目	研究の進捗に応じて、1～4 年次に履修							
総合科目	研究の進捗に応じて、1～4 年次に履修							
専門科目必修							論文研究II	
専門科目選択必修	研究の進捗に応じて、1～4 年次に履修							

【10月入学者時間割】

【10月入学制】								
年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
学期	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)	後期 (10～3月)	前期 (4～9月)
基盤科目	研究の進捗に応じて、1～4 年次に履修							
総合科目	研究の進捗に応じて、1～4 年次に履修							
専門科目必修							論文研究II	
専門科目選択必修	研究の進捗に応じて、1～4 年次に履修							

4. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

1) 教育方法

博士課程前期2年の課程では、基盤科目、総合科目、専門科目を通じた幅広い知識習得と世界的レベルでの研究活動実践・修士論文作成を行う。課程内に設ける医科学コース、看護学コース、公衆衛生学コースも同じ教育方法をとる。

博士課程後期3年の課程・医学履修課程では、自立した研究のための基盤科目、総合科目、専門科目の履修と博士論文作成に向けた研究指導を行う。博士課程後期3年の課程に設ける医科学コース、看護学コースも同じ教育方法である。

社会人・留学生に対しては、東北大学インターネットスクール（ISTU）やオンライン配信の活用、英語による授業（「ヒューマンセキュリティ国際教育プログラム」等）を実施する。

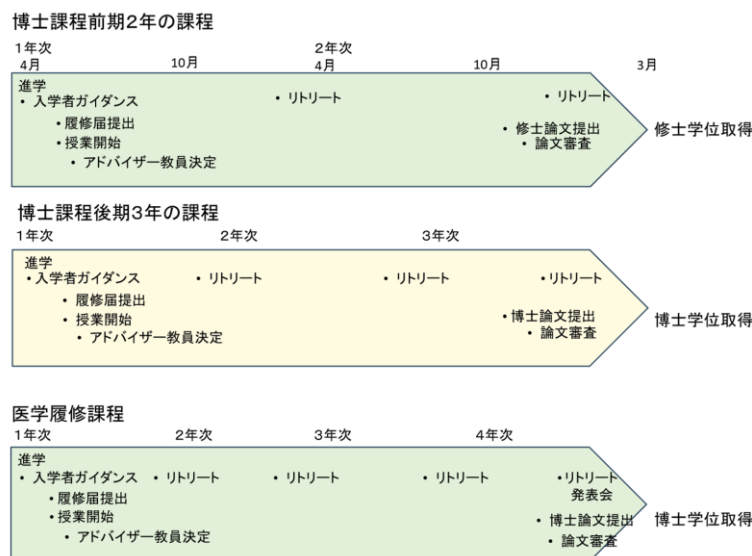
2) 履修指導の方法

（1）博士課程前期2年の課程

入学試験に際して、受験者は出願時に志望するコース・分野の研究内容を十分に理解した上で、志望分野を申請する。医療系高度職業人を養成する観点から、看護学コースを志望する学生は看護学講座の分野を志望し、公衆衛生学コースを志望する学生は社会医学講座の分野を志望する。出願前に希望する全ての志望分野の指導教授と連絡をとり、出願に対する了承を得る。合格判定は大学院合同運営委員会の審議を経て研究科委員会で決定され、合格者は志望コース・分野に配属される。

本研究科では4月及び10月の2回の入学時期を設定するが、いずれの入学時期においても、履修順序は同一である。まず入学時ガイダンスで全般的な履修方法を説明する。特に看護学コースや公衆衛生学コースでは資格取得に定められた修得すべき科目があるので、それを満たすように指導教員と相談の上、学生の自立性を基本としながら履修科目を決定する。入学後速やかに、各学生に対して、指導教授に加えてアドバイザー教員（所属する講座以外の教員）を大学院合同運営委員会において決定し、以降2名の教員がきめ細かな指導を行う。アドバイザー教員の決定にあたっては、学生本人の希望を最大限考慮する。さらにコース運営委員会や大学院合同運営委員会を定期的に開催し、学生の修学状況を把握して必要に応じて対応・改善を図る。総合医学専攻における履修スケジュールの概略を図8に示す。年に1回、大学院生が主体となって学内研究発表会（東北大学大学院医学系研究科リトリート）が開催され、大学院生は本発表会での研究成果発表が推奨される。

図8. 総合医学専攻の履修スケジュール



研究に必要な倫理性（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの3）を身につける目的で、基盤科目「医療倫理学 I」を必修とする。これはISTUによる講義で、該当年次学生全員の履修が可能である。また学際性（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）を涵養する目的で、基盤科目「学際医学 I-1」を必修で設ける。これは医学・医療に関連する周辺学問領域をオムニバス形式の講義で行うもので、社会人にも配慮しオンラインで行われるため、受講者全員の履修が可能である。さらに、国際性（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの2）を涵養する目的で、総合科目「Topics and Discussion I-1」を必修で設ける。これは留学生及び日本人学生が混成した小グループに分かれ、毎回指定された医学トピックスを討論する完全英語の授業である。社会人にも配慮しオンラインで行われる。これらの必修科目の配当年次は1年次～2年次であるが、研究の基盤となる科目であるため、なるべく早期の受講が望ましい。

1年次～2年次は「専門性・学際性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）、「国際性・多様性・協働性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの2）、「倫理性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの3）に関する基盤科目・総合科目・専門科目を、研究の進捗に応じて履修する。修了要件は「2年以上在学し、基盤科目4単位以上、総合科目2単位以上、専門科目（コース共通から10単位以上及び所属するコース専門科目から10単位以上）20単位以上、合計30単位以上修得し、論文審査・最終試験に合格すること」とし、「基盤科目」「総合科目」で総合知の土台を形成するとともに、学位取得に相応しい「専門性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）が身につくようなコース専門科目の履修を義務付ける。指導教授は学習進捗状況を把握し、適宜助言する一方、学位取得に向けた指導を計画的に行う。2年次には専門科目（コース共通）「論文研究 I」を必修で設け、修士論文を完成させる。

修了要件を満たした学生は、修士学位論文最終試験（論文審査）を受ける。審査員は主査1名及び副査1名の教授で構成される。審査員は大学院合同運営委員会の審議を経て研究科委員会で決定され、規定に則って透明性・公平性を確保しつつ論文審査が運営される。主査は研究内容を最も深く知る指導教授が務める。主査及び副査はまず提出論文を事前審査し、多角的視点からアドバイスをを行う。概ね1ヶ月半後に最終審査が行われ、学生は学際的な「総合知」の視点も含め、2年間の研究意義を明らかにする。続いて行われる最終審査の合格後、研究科委員会の承認をもって学位取得となる。

（2）博士課程後期3年の課程

入学試験に際して、受験者は出願時に志望するコース・分野の研究内容を十分に理解した上で、志望分野を申請する。医科学コースを志望する学生は全ての分野を志望できるが、看護学コースを志望する学生は看護学講座の分野を志望する。出願前に希望する分野の指導教授と連絡をとり、出願に対する了承を得る。合格判定は大学院合同運営委員会の審議を経て、研究科委員会で決定され、合格者は志望分野に配属される。

4月及び10月の2回の入学時期を設定するが、いずれの入学時期においても、履修順序は同一である。まず入学時ガイダンスで全般的な履修方法が説明され、指導教員と相談の上、学生の自立性を基本としながら、履修科目を決定する。また入学後速やかに、指導教授に加えてアドバイザー教員1（実際の研究指導担当）、アドバイザー教員2（所属する講座以外の教員）を大学院合同運営委員会において決定し、以降3名の教員がきめ細かな指導を行う。アドバイザー教員の決定にあたっては、学生本人の希望を最大限考慮する。さらにコース運営委員会や大学院合同運営委員会を定期的で開催し、学生の修学状況を把握して必要に応じて対応・改善を図る。1年次～3年次は「専門性・学際性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）、「国際性・多様性・協働性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの2）、「倫理性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの3）に関する基盤科目・総合科目・専門科目を、研究の進捗に応じて柔軟に履修する。多様な背景・目的をもつ学生に配慮して科目の大半は選択科目とするが、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー1～3が達成できるように、指導教授と相談の上、計画的に履修する。修了要件は「3年以上在学し、基盤科目1単位以上、総合科目1単位以上、専門科目（コース共通から10単位以上及び所属するコース専門科目から4単位以上）14単位以上、合計17単位以上取得し、博士論文審査・最終試験に合格すること」とし、「基盤科目」「総合科目」で総合知の土台を形成するとともに、学位取得に相応しい「専門性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）が身につくようなコース専門科目の履修を義務付ける。指導教授は学習進捗状況を把握し、適宜助言する一方、学位取得に向けた指導を計画的に行う。年に1回、大学院生が主体となって学内研究発表会（東北大学大学院医学系研究科リトリート）が開催され、大学院生は本発表会での研究成果発表が推奨される。3年次には専門科目（コース共通）「論文研究II」を必修で設け、博士論文を完成させる。

博士学位論文最終試験の審査員は主査1名及び副査2名の教授で構成される。審査員は大学院合同運営委員会の審議を経て研究科委員会で決定され、規定に則って透明性・公平性を確保しつつ運営される。主査は指導教授が務める。副査第一は第一次審査の取りまとめを担当し、副査第二は多角的な視点で審査を行う。第一次審査に主査は加わらず、副査第一、副査第二及び数名の第一次審査委員が多角的な観点から論文の意義を審査する。続く最終審査は、主査が取りまとめを行い、副査第一と副査第二も加わって行われる。最終審査の合格後、研究科委員会の承認を経て学位取得となる。

（３）医学履修課程

入学試験に際して、受験者は出願時に志望する分野の研究内容を十分に理解した上で、志望分野を申請する。出願前に希望する志望分野の指導教授と連絡を取り、出願に対する了承を得る。合格判定は大学院合同運営委員会の審議を経て研究科委員会で決定され、合格者は志望分野に配属される。

4月及び10月の2回の入学時期を設定するが、いずれの入学時期においても、履修順序は同じである。まず入学時ガイダンスで全般的な履修方法が説明され、指導教員と相談の上、学生の自立性を基本としながら、履修科目を決定する。また入学後速やかに、指導教授に加えてアドバイザー教員1（実際の研究指導担当）、アドバイザー教員2（所属する講座以外の教員）を大学院合同運営委員会において決定し、以降3名の教員がきめ細かな指導を行う。アドバイザー教員の決定には学生本人の希望を最大限考慮する。さらに大学院合同運営委員会を定期的に開催し、所属学生の修学状況等を把握して必要に応じて対応・改善を図る。1年次～4年次は「専門性・学際性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）、「国際性・多様性・協働性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの2）、「倫理性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの3）に関する基盤科目・総合科目・専門科目を、研究の進捗を考慮しつつ柔軟に履修する。多様な背景をもつ学生に配慮して科目の大半は選択科目とするが、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー1～3が達成できるように、指導教授と相談の上、計画的に履修する。修了要件は「4年以上在学し、基盤科目4単位以上、総合科目1単位以上、専門科目18単位以上、合計30単位以上取得し、博士論文審査・最終試験に合格すること」とし、「基盤科目」「総合科目」で総合知の土台を形成するとともに、学位取得に相応しい「専門性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）が身につくような専門科目の履修を義務付ける。指導教授は学習進捗状況を把握し、適宜助言する一方、学位取得に向けた指導を計画的に行う。年に1回、大学院生が主体となって学内研究発表会（東北大学大学院医学系研究科リトリート）が開催され、大学院生は本発表会での研究成果の発表が推奨される。4年次には専門科目「論文研究II」を必修で設け、博士論文を完成させる。

博士学位論文最終試験（論文審査）の審査員は主査1名及び副査2名の教授で構成される。審査員は大学院合同運営委員会の審議を経て研究科委員会で決定され、規定に則って透明性・公平性を確保しつつ論文審査が運営される。主

査は指導教授が務める。副査第一は第一次審査の取りまとめを担当し、副査第二は多角的な視点で審査を行う。第一次審査に主査は加わず、副査第一、副査第二及び数名の第一次審委員が多角的な観点で論文の意義を審査する。続く最終審査は、主査が取りまとめを行い、副査第一と副査第二も加わって行われる。最終審査の合格後、研究科委員会の承認を経て学位取得となる。

3) 複数教員による指導の方法

博士課程前期2年の課程においては2名（指導教授、アドバイザー教員）による指導体制をとる。指導教授は履修指導・研究指導の責任者、アドバイザー教員は所属する講座以外の教員として多様性・学際性を提供する役割を担う。一方博士課程後期3年の課程・医学履修課程は3名の教員による指導体制を構築する。指導教授は履修指導・研究指導の責任者、アドバイザー教員1は実際の研究指導担当、アドバイザー教員2は所属する講座以外の教員として多様性・学際性を提供する役割を担う。

4) 修了要件等

博士課程前期2年の課程は、2年以上在学し、基盤科目4単位以上、総合科目2単位以上、専門科目（コース共通から10単位以上及び所属するコース専門科目から10単位以上）20単位以上、合計30単位以上を取得し、論文審査・最終試験に合格することが修了要件である。医科学コース、看護学コース、公衆衛生学コースとも同様である。コース共通及びコース専門科目を20単位以上義務付けることで、「専門性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）を身につける上で必要な単位数を確保する一方、基盤科目4単位以上、総合科目2単位以上履修することで、学際性（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）、「国際性・多様性・協働性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの2）、「倫理性」ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの3）を身につける。特に「学際医学 I-1」及び「論文研究 I」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）、「Topics and Discussion I-1」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの2）、「医療倫理学 I」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの3）は必修である。学際性を深めるために、他のコースの専門科目を履修することも可能である。

博士課程後期3年の課程は、3年以上在学し、基盤科目1単位以上、総合科目1単位以上、専門科目（コース共通から10単位以上及び所属するコース専門科目から4単位以上）14単位以上、合計17単位以上を取得し、博士論文審査・最終試験に合格することが修了要件である。医科学コース、看護学コースとも同様である。コース共通及びコース専門科目を14単位以上義務付けることで、「専門性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）を担保する。「論文研究 II」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）は必修である。基盤科目1単位以上、総合科目1単位以上、合計17単位以上履修することで、学際性（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1）、「国際性・多様性・協働性」（ディプロマ・ポリシー及びカリキュ

ラム・ポリシーの2)、「倫理性」(ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの3)を身につける。学生の多様な背景を考慮し、「論文研究 II」以外は選択科目とするが、指導教員と相談のうえ履修科目を決定する。学際性を深めるために、他のコースの専門科目を履修することも可能である。

医学履修課程は、4年以上在学し、基盤科目4単位以上、総合科目1単位以上、専門科目18単位以上、合計30単位以上を取得し、博士論文審査・最終試験に合格することが修了要件である。専門科目を18単位以上義務付けることで、「専門性」(ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1)を担保する。「論文研究 II」(ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1)は必修である。基盤科目4単位以上、総合科目1単位以上履修することで、学際性(ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの1)、「国際性・多様性・協働性」(ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの2)、「倫理性」ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの3)を身につける。学生の多様な背景を考慮し、「論文研究 II」以外は選択科目とするが、指導教員と相談のうえ履修科目を決定する。

5) 履修モデル

各課程・コースの履修モデルを別添資料1に示す。

6) 他大学における授業科目の履修等に対する考え方

本学大学院通則(別添資料2)に定めるとおり、教育上有益であると認めるときは、あらかじめ、当該他の大学院と協議の上、学生が当該他の大学大学院の授業科目を履修することを認めることがある。学生が他の大学院もしくは研究所等又は外国の大学院等で研究指導を受ける場合、並びに外国の大学院等において修学・留学(休学中に修学する場合も準用)する場合も同様である。

上記により受けた研究指導並びに留学、及び休学中に修学して得た成果は、所定の上限単位を超えない範囲で、本大学院において修得した単位又は受けた研究指導とみなす。

また、入学前に本大学院、他の大学院又は外国の大学院等で履修した授業科目について、所定の上限を超えない範囲で、本大学院で修得した単位とみなすことがある。

7) 留学生に対する履修指導や生活指導

本研究科では外国人留学生の受け入れを増やす方針を掲げており、学修および生活における支援・指導体制を整えている。

入学前の支援として、本部の国際サポートセンターでは入学予定の外国人留学生の在留資格認定証明書(COE)の代理申請を行い、COE発行後は留学ビザ申請に関する案内を行っている。入学後は医学系研究科国際交流支援室において在留カードの情報を管理し、進学等による在留期間の更新や、休学・退学等で在留資格の変更が必要な際は随時手続き方法を案内し、適切な対応を支援している。またこれらはホームページ(<https://sup.bureau.tohoku.ac.jp/>)からも随時確認可能である。

学生生活全般に対する支援は、国際交流支援室と教務課等が連携をとりながら実施している。具体的には、学生寮入居の手続き、健康保険・傷害・賠償責任保険への加入案内、定期健康診断、災害時の安否確認、災害発生時の対処法等について案内している。

履修指導については日本人学生と同様に、博士課程前期2年の課程においては2名、博士課程後期3年の課程・医学履修課程においては3名の教員による体制で実施する。すなわち指導教授が履修指導・研究指導の責任者となり、アドバイザー教員が研究指導や学修支援を行う。授業科目の履修にあたっては、英語版授業シラバスや東北大学学務情報システムを利用する。

また日本語学習の機会として、川内キャンパスでは高度教養教育・学生支援機構が実施する日本語教育プログラムを、星陵キャンパスでは本研究科が実施する日本語クラスを提供している。

新入生には1年間大学本部の支援によるチューター学生の配置が可能であり、履修登録をはじめ各種手続きについて相談できる仕組みを整えている。さらに本部国際サポートセンターでも外国人構成員向けのコールセンターを設置しており、日常生活の困り事ことなど日英での相談が可能である。医学系研究科国際交流支援室では新入生への個人面談を実施し、必要に応じて個別サポートも行っている。さらに、留学生同士や日本人学生との交流促進の機会も積極的に設けている。

8) 成績評価

講義では参加姿勢、レポート、試験を総合的に評価し、演習では参加姿勢、課題把握・研究能力、プレゼンテーション能力等を総合的に評価する。評価基準は、A A (90～100 点、成績が特に優秀であるもの)、A (80～89 点、成績が優秀であるもの)、B (70～79 点、成績が良好であるもの)、C (60～69 点、成績が可であるもの)、D (0～59 点、成績が不可であるもの)とする。いずれの課程、コースも同じ成績評価を用いる。

9) 転コース

学生が転コースを希望する場合は、現在の指導教員、及び転コース後に指導を受けることを希望する教員の承認を受け、大学院合同運営委員会の議を経て認められることがある。

10) 学位論文審査体制・評価基準の公開方法

東北大学大学院通則及び東北大学学位規程の定めにより、学位論文の審査及び学位の授与を行う。なお本研究科で授与する学位は「2. 研究科・専攻等の名称及び学位の名称」に示したとおりである。

(1) 学位論文の審査体制

本研究科における学位論文の審査体制の基本事項は、東北大学学位規程に定めたとおりである。

(2) 学位論文の審査の実施

本研究科における博士課程前期2年の課程、博士課程後期3年の課程・医学履修課程における学位授与審査は、東北大学大学院医学系研究科における修士の学位授与審査取扱内規（別添資料3）及び東北大学大学院医学系研究科における博士の学位授与審査取扱内規（別添資料4）に基づき行う。審査基準は本学ホームページにて公表する。

（3）審査結果の報告及び学位の授与

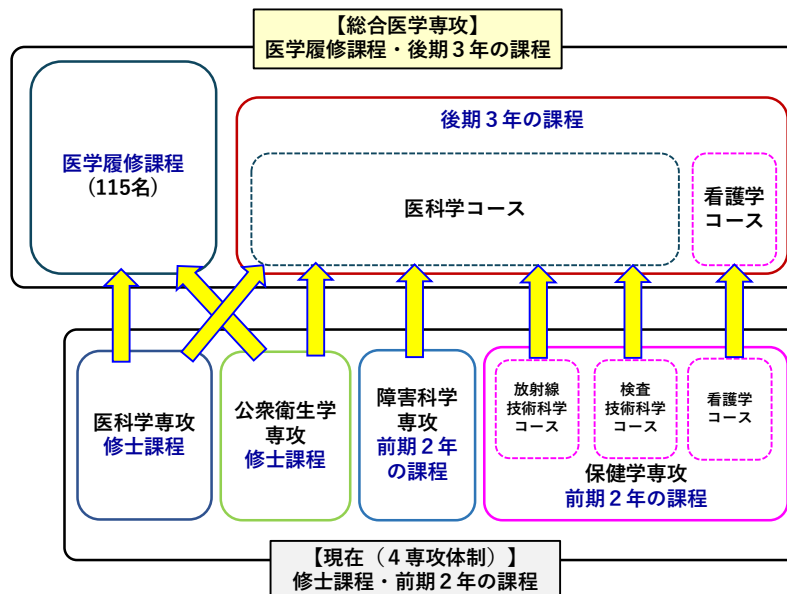
本研究科における学位論文の審査結果の報告及び学位の授与、学位論文の公表については、東北大学学位規程第13条～18条（別添資料5）に定めるとおり行っている。

11) 博士課程前期2年の課程と後期3年の課程の同時設置について

「1)設置の趣旨及び必要性」で記載したように、医学・医療を取り巻く情勢の急激な変化を受け、学際的医学研究の活性化や多分野と協働し総合知を活用できる人材の養成が喫緊の課題である。令和7年9月～10月に実施した病院・企業へのアンケート調査からも、総合知を涵養しつつ本研究科のこれまでの強みである高度な研究力をさらに発展させた人材養成に、出来る限り早期に取り組む必要性が確認された。そこで令和9年度に既存の4専攻を発展的に解消し、新たな総合医学専攻を博士課程前期2年の課程、博士課程後期3年の課程、医学履修課程同時に設置し、速やかに社会の要請に応える。

現在の4専攻に在籍する博士課程前期2年の課程・修士課程の学生が博士課程後期3年の課程又は医学履修課程に進学する際は、新たな総合医学専攻へ進学することになるが、既存の教育研究分野を移行させた形での専攻再編であり、自ら選んだ課題研究を、同じ教員指導体制のもとで更に発展させることが可能である。具体的には、現専攻の保健学専攻看護学コースを構成している講座（基礎・健康開発看護学、家族支援看護学）に属する教員が総合医学専攻看護学講座に移行し看護学コースの指導を担当するため、現在の保健学専攻前期2年の課程看護学コースに所属する全ての学生が、同じ教員指導体制のもと再編後の後期3年の看護学コースに接続できる（図9参照）。

図9. 現行の前期2年の課程から総合医学専攻後期3年の課程への接続



また再編後の医科学コースは、現専攻の医科学専攻修士課程、障害科学専攻、保健学専攻放射線技術科学コース及び検査技術科学コースを含むので、ここに在籍する学生も、博士課程後期3年の課程医科学コースに進学し、同じ教員指導体制のもとに研究を継続発展できる。現専攻の公衆衛生学専攻修士課程に在籍する学生は、現状通り医学履修課程もしくは博士課程後期3年の課程に進学して研究をさらに発展させるが、この場合も同じ教員指導体制を継続することが可能である。

総合医学専攻におけるカリキュラムの中核は「専門性・学際性」「国際性・多様性・協働性」「倫理性」である。博士課程前期2年の課程における4つの必修科目のうち、「論文研究」「医療倫理学」は現在の4専攻体制においても必修科目であるが、「学際医学」「Topics and Discussion」は再編後の養成する人材像に合わせて新たに必修になる科目である。そのため現行の博士課程前期2年の課程から再編後の博士課程後期3年の課程へ接続する内部進学者に関しては、「専門性・学際性」「国際性・多様性・協働性」等を担保するため、指導教授は「学際医学 II-I」（基盤科目1単位）「Topics and Discussion II-I」（総合科目1単位）等の履修を指導するとともに、各学生に応じた丁寧な指導・助言を行う。

共通・総合科目は学際性に富んだ様々なテーマを扱うため、博士課程前期2年の課程及び博士課程後期3年の課程共通で開講する選択科目が多いほか、博士課程後期3年の課程で独自に設けられる科目も博士課程前期2年の課程の科目修得を必須としない授業内容構成となっており、他大学や現行の博士課程前期2年の課程学生が博士課程後期3年の課程に進学する際の不利益がないよう設計している。

12) 研究の倫理審査体制

本研究科では、人を対象とする研究の倫理的妥当性を確保するため、「東北大学大学院医学系研究科倫理委員会」を設置している。この委員会は人を対象とする生命・医学系研究について、医の倫理に関するヘルシンキ宣言の趣旨に基づき、被験者の人間としての尊厳、人権の尊重その他の倫理的・科学的観点から調査審議するために、東北大学大学院医学系研究科長が設置した合議制の委員会である。東北大学大学院医学系研究科倫理委員会内規（別添資料 6）に基づき、以下の委員で構成される。

- ・大学院医学系研究科又は病院の教授、准教授、講師又は助教 6 人以上
- ・加齢医学研究所の教授又は准教授 1 人以上
- ・医学系研究科等以外の東北大教員又は学外の者 2 人以上

なお、上記に掲げる委員には、以下に掲げる者が各 1 人以上含まなければならない。

- ・倫理学・法律学の専門家等の人文・社会科学の有識者
- ・一般の立場から意見を述べることのできる者

博士課程前期 2 年の課程への入学者全員に対して「医療倫理学 I」の受講を義務付ける。その後、倫理申請を含め研究倫理に適合した研究活動が実施できているかどうかは、指導教員が普段の研究指導において確認する。加えて、「中間審査」及び 2 年次に必修の「論文研究 I」においても、研究倫理への適合性を確認する。博士課程後期 3 年の課程・医学履修課程では「医療倫理学 II」を選択科目として開講する一方、倫理申請を含め研究倫理に適合した研究活動が実施できているかどうかを、指導教員が普段の研究指導において確認する。博士課程後期 3 年の課程及び医学履修課程で必修の「論文研究 II」において、研究倫理への適合性を確認する。

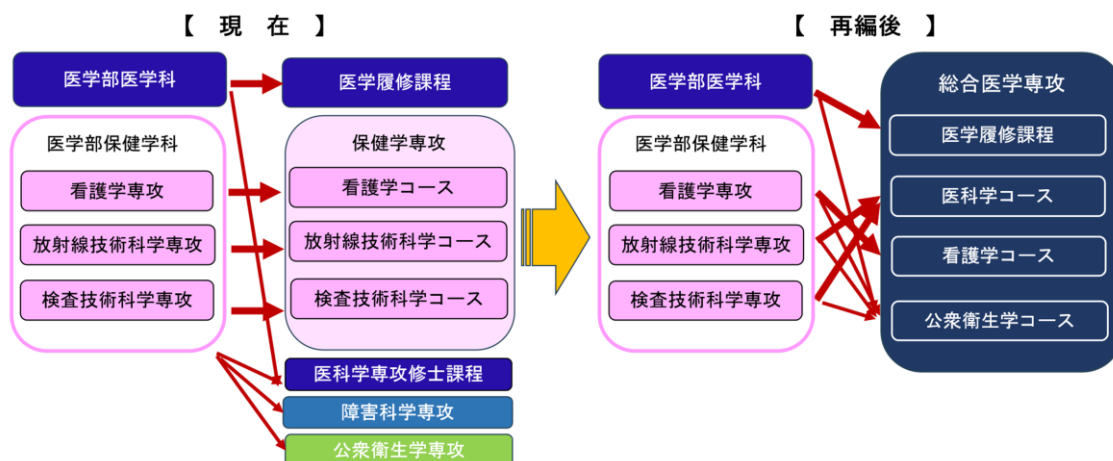
倫理審査の申請手続きはホームページ上の「倫理審査申請システム」を通じで行われる。委員会の開催日程、申請締切日、申請費用等はウェブページで公開されている。

5. 基礎となる学部との関係

総合医学専攻は医学部（医学科、保健学科）を基盤として構成されている（図9）。医学履修課程は医学部医学科を、博士課程前期2年の課程・博士課程後期3年の課程は医学部保健学科を主な基盤としている。特に保健学科で養成してきた看護師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師等の医療職において、より高度な専門知識と研究力を身につけた人材輩出の社会的要請が高まっている。この社会的需要に応えるため、総合医学専攻での大学院教育を強化する。

また、総合医学専攻の理念・目的は本学医学部医学科、保健学科における理念・目的とも合致し、その教育課程は医学部医学科、保健学科での教育の基本的考え方を発展させるものである。現在医学部医学科卒業生が進学する「医科学専攻医学履修課程」は、再編後は「総合医学専攻医学履修課程」に引き継がれ、さらに発展する。

図9. 組織再編後の教育研究体制(学部との連携)



6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合

東北大学大学院通則第 28 条の 2 第 2 項（別添資料 2）において、「文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。」と定めており、また同第 47 条において「本大学院に、インターネットを利用した遠隔教育を行うため、東北大学インターネット・スクールを置く。」と定めている。

本研究科では、遠隔地に居住等の理由により頻繁に本学に通学できない学生や、遠隔の他大学との連携授業、一部の授業科目において、ZOOM 等多様なメディアを利用した授業を実施している。リアルタイム型の授業では、出席管理のほか、発言またはチャット機能を用いた質疑応答を行い、オンデマンド型の授業では、確認的な課題または学務情報システムを用いた小テストの提出等によるフィードバックを行い、実施状況を把握している。

7.「大学院設置基準」第2条の2又は第 14 条による教育方法の実施

本研究科では、大学院設置基準第 14 条による教育（東北大学大学院通則第 28 条の 4 及び東北大学大学院医学系研究科規程第 7 条の 2（教育方法の特例）（別添資料 7）を、主として社会人学生が夜間、その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を希望した場合において実施する。

1）修業年限

修業年限は、博士課程前期 2 年の課程においては 2 年、博士課程後期 3 年の課程においては 3 年、医学履修課程においては 4 年としているが、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを願い出たときは、本研究科委員会の議を経て本研究科長が許可することがある。

2）履修指導及び研究指導の方法

指導教員は、社会人であることを考慮し、学生の状況に応じて適切な履修計画を指導する。

3）授業の実施方法

社会人学生から夜間や休業期間中の授業又は研究指導の申し出があった場合は、関係者と調整のうえ、実施することがある。

4）教員の負担の程度

夜間や休業期間中に授業又は研究指導を担当する教員の負担については、勤務時間の振替措置等により、過剰な負担が生じないように配慮する。

5）図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の厚生に対する配慮、必要な職員の配置

図書館の利用に関しては、後述する「12. 施設、設備等の整備計画」の「3）図書等の資料及び図書館の整備計画」のとおり毎日開館しており、学修の場として自由に利用することができる。7 時～24 時（土曜、日曜、祝祭日を含む）まで利用可能で、夜間や休日を含め、社会人も通常の学生と同様に利用できる。学生の厚生に関しては、学部生と同様に保健管理センターで定期健康診断、心身の健康診断、保健教育などを扱っている。また学生相談特別支援センター学生相談所では学業、将来の進路、人間関係、性格、心の相談など、学生生活上の様々な悩みに関して相談に応じている。学生の厚生に関する配慮、職員の配置に関しても、社会人学生にかかわらず、学生全体へ適切に提供を行っている。

6）入学者選抜の概要

博士課程前期 2 年の課程、博士課程後期 3 年の課程においては社会人に特化した選抜は行わず、志願者の学力・修学適性・志望動機に基づいて入学者選抜を実施する。

一方、医学履修課程は医師として勤務しながら研究活動を行う社会人学生が大多数であるため、社会人の大学院進学を後押しする取り組みとして、社会人特別選抜を設けて選抜する。選抜方法は英語と口頭試問で行う。入学後は一般の学生と同じカリキュラムで履修を進めるが、社会人学生の状況に応じた適切な学習・研究環境を保証している。

7) 必要とされる分野であること

総合医学専攻の各課程に在籍する社会人学生の大半は医療従事者であり、勤務形態や臨床現場で求められる先端医療技術を提供しなければならないこと等を考慮する必要がある。従って「大学院設置基準」第 14 条による教育方法の実施が必要な分野であり、学生の状況に応じた授業・研究指導を提供する必要がある。

8) 大学院を専ら担当する専任教員を配置するなどの教員組織の整備状況

本研究科においては、社会人学生にかかわらず、適切な教育・研究指導を行うに足る教員組織を整備している。教員組織の整備状況については、「10. 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色」で説明するが、教育・研究指導及び学位審査を確実に実施できるだけの人数・職位・専門分野の教員を配置しており、学生が幅広い知識と技術を習得し、総合知を持って国際的な医療ニーズに対応できる能力を養える環境を整えている。

8. 取得可能な主な資格(受験資格)

表 16 に示すように、博士課程前期 2 年の課程では、医科学コースで医学物理士の受験資格が、看護学コースで専門看護師、保健師、助産師の受験資格が、公衆衛生学コースで認定遺伝カウンセラーの受験資格が取得可能である。これらの資格は社会的ニーズが高く、高度専門医療人材の育成という本専攻の目的に合致している。

表16. 取得可能な主な資格

課程	コース	資格	種類	取得できるもの	資格取得のための追加履修の必要性
前期2年の課程	医科学コース	医学物理士	民間資格	受験資格	修了要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が修了の必須条件ではない
	看護学コース	専門看護師	民間資格	受験資格	修了要件単位に含まれる科目のほか、資格取得のために定められた科目の履修が必要
		保健師	国家資格	受験資格	修了要件単位に含まれる科目のほか、資格取得のために定められた科目の履修が必要
		助産師	国家資格	受験資格	修了要件単位に含まれる科目のほか、資格取得のために定められた科目の履修が必要
	公衆衛生学コース	認定遺伝カウンセラー	民間資格	受験資格	修了要件単位に含まれる科目のほか、資格取得のために定められた科目の履修が必要

9. 入学者選抜の概要

1) 選抜制度・選抜体制

本研究科では次世代の医学・医療を推進する研究者及び次世代医療の実践者となる高度専門医療人の養成を行うため、旺盛な探求心並びに高い使命感・倫理観に支えられた専門的知識と技能をもって、人々の健康及び福祉の増進への寄与を目指し、医学・医療の発展に貢献する豊かな人間性を備えた研究者、高度職業人、または教育者を志す人材を求めている。

このため、一般選抜と海外在住者対象特別選抜、社会人特別選抜（医学履修課程のみ）を設け、国内外から優秀な人材を広く募集する。

各課程における入学者選抜方法とアドミッション・ポリシーの関係を表17に示す。留学生への選抜試験は英語で行われ、留学生の日本語能力は資格要件に含めない。

表17. 入学者選抜方法とアドミッション・ポリシーとの関係

課程	選抜方法	英語力	専門的知識	思考能力	志望動機	適性
博士課程 前期2年の課程	書類等審査		○	○	○	○
	筆記試験		○	○		
	英語	○				

課程	選抜方法	英語力	専門的知識	思考能力	志望動機	適性
博士課程 後期3年の課程	口頭試問		○	○	○	○
	英語	○				

課程	選抜方法	英語力	専門的知識	思考能力	志望動機	適性
医学履修課程	口頭試問		○	○	○	○
	英語	○				

2) 博士課程前期2年の課程の入学者選抜方法

入学時期は、4月及び10月とする。4月入学者の選抜は年2回（第一次募集、第二次募集）、10月入学者の選抜は年1回を基本とし、いずれにおいても一般選抜及び海外在住者対象特別選抜を実施する。なお、当該年度10月入学者の選抜は、次年度4月入学者選抜・一次募集と合わせて実施する。

博士課程前期2年の課程の入学定員は、4月及び10月入学並びに一般選抜及び海外在住者対象特別選抜を合わせて110人であり、個別の募集定員は設定しない。コースごとの選抜は行わず、各コースに定員を設定しないが、おおよそ医科学コース：77人、看護学コース：23人、公衆衛生学コース：10人程度を目安とする。

書類等審査、筆記試験（小論文）、英語（外部試験スコア）により総合的に選抜する。これにより、語学力、専門的知識・思考能力、志望動機・適性を多面的に評価し、本専攻の教育理念に合致した人材を選抜する。

3) 博士課程前期2年の課程の出願資格

大学卒業者、学士の学位取得者、外国の16年教育課程修了者など（いずれも見込み含む）が出願できる。「門戸開放」の理念に基づき、多様なバックグラウンドを持つ人材に広く門戸を開いている。

4) 博士課程後期3年の課程の入学選抜試験方法

入学時期は、4月及び10月とする。4月入学者の選抜は年2回（第一次募集、第二次募集）、10月入学者の選抜は年1回を基本とし、いずれにおいても一般選抜及び海外在住者対象特別選抜を実施する。なお、当該年度10月入学者の選抜は、次年度4月入学選抜・一次募集と合わせて実施する。

博士課程後期3年の課程の入学定員は、4月及び10月入学並びに一般選抜及び海外在住者対象特別選抜を合わせて42人で、個別の募集定員は設定しない。コースごとの選抜は行わず、コースごとに定員を設定しないが、おおよそ医科学コース：34人、看護学コース：8人程度を目安とする。

口頭試問（専門知識・思考能力・志望動機・適性評価）、英語（外部試験スコア）の成績により総合的に選抜する。これにより、語学力、高度な専門的知識・思考能力、研究能力、志望動機・適性を多面的に評価し、本専攻の教育理念に合致した人材を選抜する。

5) 博士課程後期3年の課程・医学履修課程の出願資格

大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者（医学履修課程）、修士学位または専門職学位取得者、外国の大学院で相当する学位取得者（いずれも見込み含む）などが出願できる。「門戸開放」の理念に基づき、多様なバックグラウンドを持つ人材に広く門戸を開いている。

6) 医学履修課程の入学選抜試験方法

入学時期は、4月及び10月とする。4月入学者の選抜は年2回（第一次募集、第二次募集）、10月入学者の選抜は年1回を基本として、いずれにおいても一般選抜、社会人特別選抜及び海外在住者対象特別選抜を実施する。なお、当該年度10月入学者の選抜は、次年度4月入学選抜・一次募集と合わせて実施する。医学履修課程の入学定員は、4月及び10月入学並びに一般選抜、社会人特別選抜及び海外在住者対象特別選抜を合わせて115人で、個別の募集定員は設定しない。口頭試問（専門知識・思考能力・志望動機・適性評価）、英語（外部試験スコア）の成績により総合的に選抜する。これにより、語学力、高度な専門的知識・思考能力、研究能力、志望動機・適性を多面的に評価し、本専攻の教育理念に合致した人材を選抜する。

7) 医学履修課程の出願資格

大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者（医学履修課程）、修士学位または専門職学位取得者、外国の大学院で相当する学位取得者（いずれも見込み含む）などが出願できる。「門戸開放」の理念に基づき、多様なバックグラウンドを持つ人材に広く門戸を開いている。

8) 多様な志願者獲得に向けた入学者選抜

(1) 博士課程後期3年の課程における医科学コースの新設

本研究科では現在、医科学専攻修士課程修了生の主な進学先は医学履修課程であるが、本コースを新設することによって自部局の大学院入学者・後期課程進学者の増加が見込まれる。加えて本コースでは多面的な融合教育を行うため、他学部・他大学出身者、社会人・留学生も含めた多様な志願者の獲得も今まで以上に見込める。

(2) 海外在住者対象特別選抜制度の実施

海外在住者を対象としたオンライン試験による特別選抜を実施しており、留学生志願者の獲得に向けて、海外からでも安心して受験できる体制を整備している。

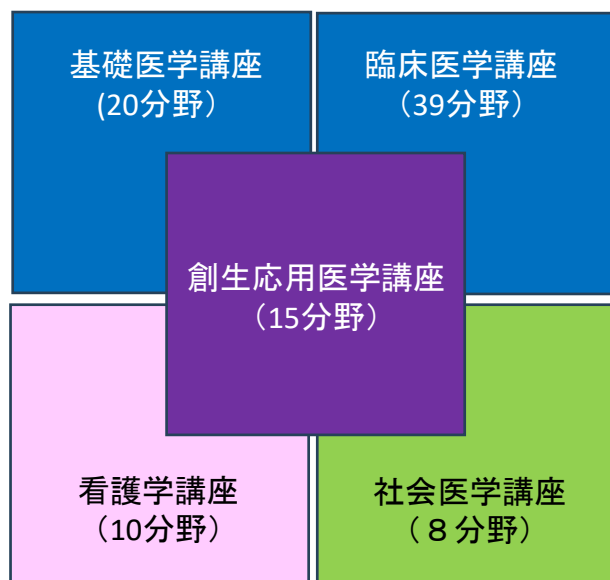
(3) 質の高い入学者選抜の実施

志願者の学力・修学適性・志望動機に基づく入学者選抜を実施し、多様性に富んだ質の高い学生を獲得する体制を整備している。

10.教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

総合医学専攻の理念・目的を実現するため、5つの講座（基礎医学講座、臨床医学講座、社会医学講座、看護学講座、創生応用医学講座）を編成する（図11）。

図11. 総合医学専攻における教育組織



このうち基礎となる4講座（基礎医学講座（20分野）、臨床医学講座（39分野）、社会医学講座（8分野）、看護学講座（10分野）それぞれに専門分野の教員を配置し、専門性を担保する。この4講座は従来の学問体系に立脚したもののだが、総合医学専攻の理念を実現するために、さらに創生応用医学講座を新設し、既存の学問体系に収まらない先導的な学際研究・教育を加速させる。この創生応用医学講座では、例えばAI技術を活用した新たな疾患予測モデルを開発し、看護や公衆衛生領域と協働しながら社会実装することや、優れた基礎研究成果を臨床応用する等、複数の講座にまたがるような研究・教育活動を共同して発展させる。新学術領域の創出や近未来型医療の実現のみならず、総合医学専攻における学際研究・教育の基盤となる。創生応用医学講座には既存各専攻の学際色・先進性の強い7分野に研究科附属創生応用医学研究センターの8分野が新たに加わり、合計15分野からなる講座として学際的な教員を配置する。この研究科附属創生応用医学センターは、平成14年度に疾患の理解や制御を目指した部局横断型の教育研究施設として本研究科内に設置し、AI医学等多領域に波及効果の高い学術研究拠点として成果を挙げてきている。

この5つの講座体制により、本研究科が従来注力してきた高度な専門教育とともに、医学・医療及び関連する周辺学問領域に広く対応する学際的な教養・知識を身につけ、領域融合による総合知を涵養することが可能となる。また、既存の学問体系に収まらない幅広い社会的課題を解決するための実践力を身につけることができる。全ての講座において、博士前期・後期課程の医科学コー

スと医学履修課程の教育研究指導を担当する。更に社会医学講座は公衆衛生学コースを、看護学講座は看護学コースを責任を持って担当し、教育研究指導にあたる。専攻再編に伴う組織移行表を表 18（別添）に示す。

1) 教員配置の考え方

東北大学では、関連する学部・研究科と連絡・調整をとり、本学に設置されている学部・研究科における教育・研究指導及び学位審査を確実に実施できるだけの人数・職位・専門分野の教員を確実に配置でき、学内外から担当教員の配置状況を確認できるようになっている。

なお、専攻再編により入学定員が増加することになるが、総合医学専攻の教育組織体制として、新たに創生応用医学講座（15 分野）を設置し、5つの講座体制を整備することから十分な学生指導体制を構築することが可能である。

また、新専攻では基礎医学、臨床医学、看護学、社会医学、創生応用医学の専門領域を融合させた学際的な教育を推進する。医学に障害科学、放射線技術科学、検査技術科学を内包させ、各分野の専門家をバランスよく配置しており、学生が幅広い知識と技術を習得し、総合知を持って国際的な医療ニーズに対応できる能力を養えるようになっている。

2) 中心的な研究分野と研究体制

本研究科の教育研究組織では、学際フロンティア医学の推進や先端的医療技術の開発、医療の諸課題の解決等を中心的な研究分野として掲げている。具体的には代謝・レドックス、脳神経科学、データ科学、未来型医療技術の開発を主要テーマとし、5つの講座が密接に連携しつつ国際的な学術の先導や国際卓越研究大学に相応しい研究成果を目指す。このために、学内外の関連研究部門や医療機関と連携を強化し、国際的視点で共同研究や情報交換を積極的に行なっている。産学連携活動も盛んで、ゲノム解析を基盤とした薬剤ターゲット開発等優れた成果を多くあげている。学生も研究活動に積極的に参加し、海外拠点を積極的に利活用するなど、実践的な経験を通じて将来の研究者・医療人として必要な資質を高めている。このように、本研究科は設置の趣旨と特色を反映した教員配置と社会的ニーズに応える研究体制を整備し、質の高い教育・研究の実現を目指している。

3) 教員の年齢構成、定年に関する規定

東北大学では、教育研究の活力を維持し、さらに発展させ、持続可能な研究体制を構築することを目指している。年齢や職位の構成等の偏りによる組織の硬直化を避けるため、若手教員比率の向上に努めている。

総合医学専攻の完成年度末における専任教員の構成年齢は以下のとおりであり、教育研究水準の維持向上及び活性化に支障がない構成となっている。

(1) 職階別内訳 : 教授 82 人、准教授 61 人、講師 45 人、助教 82 人

(2) 年齢構成 : 30～39 歳 23 人、40～49 歳 77 人、50～59 歳 118 人、
60～64 歳 46 人、65 歳以上 6 人

なお、本学における教員の定年は、「国立大学法人東北大学職員就業規則（別添資料8）」において65歳と定めている。

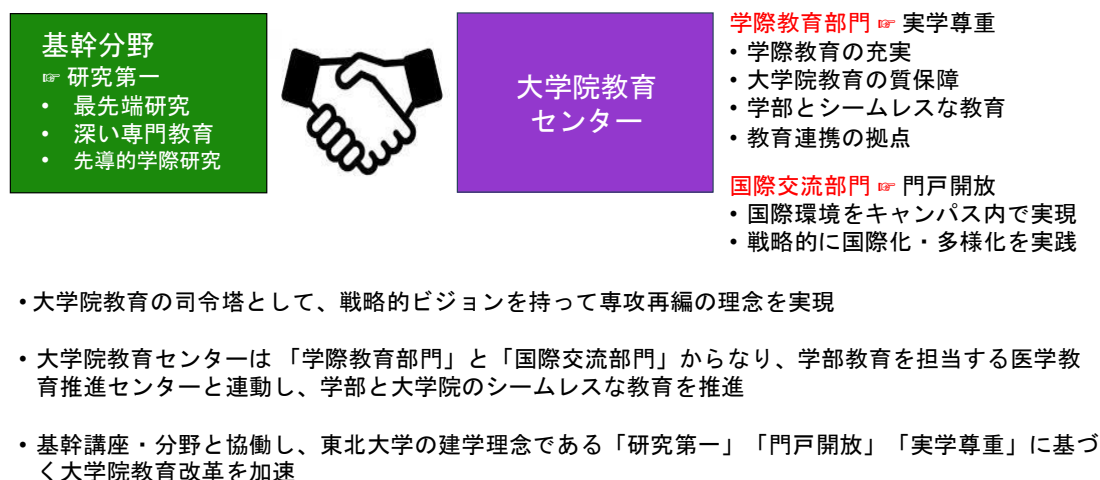
4) 組織的な連携体制

本学における教育活動や厚生補導等の運営体制は、教員と事務職員が明確な役割分担のもとで連携し、組織的に展開されている。具体的には、教員は研究教育活動の企画や実施、学生指導、カリキュラム設計を主に行い、事務職員は運営管理業務全般をサポートすることで、教員が教育研究に専念できる環境を整備している。さらに本研究科では教員と事務職員の中間的な役割を担う研究支援室を設置し、研究資金の獲得、研究成果の社会的還元、国際卓越研究大学としての研究力強化を効果的に進めており、教育・研究の発展に寄与している。

また事務職員のデジタルスキル向上を目的に事務DX化を推進している。これにより、教員と事務職員の間でデジタルツールを活用した情報共有や業務効率化が進み、迅速かつ的確な連携体制が構築されている。このような取り組みは教育研究活動の質を高めるのに役立ち、研究科全体の運営の基盤となっている。

さらに今回新たに大学院教育センターを新設し、大学院教育の質の向上を目指す一方、戦略的ビジョンを持って大学院教育にあたる（図12）。

図12. 大学院教育センターの設立



5) 期待される教育効果

総合医学専攻への再編により、以下の教育効果が期待される：

(1) 科目体系の整理と効果的カリキュラム構築

現行の587もの大学院科目を整理し、教員の負担軽減と学生の混乱防止を図るとともに、教育理念実現に向けた体系的で効果的なカリキュラムを構築する。

(2) 総合科目による社会課題解決力と学際的視点の育成

新設する総合科目により、既存の学問体系に収まらない社会的課題への対応力を強化し、多分野融合教育を柔軟かつ積極的に展開する。

(3)学際的視点と専門教育の充実

学際的視点の涵養と総合知の土台形成の上に専門教育を行うことで、看護学コース、公衆衛生学コース及び医学履修課程の教育が一層充実する。

(4)分野間融合研究・人材交流の加速

専攻の壁を取り払うことで研究科内の学際性が高まり、分野間の融合的研究や人材交流を加速する。また、他研究科との横断的な教育研究も促進される。大学院学生は授業科目を通じて所属分野以外の教員と多く接し、多面的視野が広がる。その結果アドバイザー教員の実効性が高まり、メンターとしての親身なサポートのみならず異分野間の研究交流も加速する。

(5)大学院教育センターによる戦略的教育展開と質保証強化

大学院教育センターが大学院教育の司令塔となることで、長期的な視点から戦略的に大学院教育を展開できるようになる。多彩な背景、多様な目的を持った学生を教育するための質保証が大幅に強化される。

これらの教育効果により、高度な専門性と学際的視野を併せ持つ人材の輩出、研究力の向上と社会実装の加速、国際的に活躍できる医学研究者・医療人の育成、教育の質保証と効率化、東北大学の国際的プレゼンスの向上が実現できる。

11. 研究の実施についての考え方、体制、取組

1) 研究の実施についての考え方、実施体制、環境整備

総合医学専攻では、高度な専門的知識・技術と学際的な多彩な知を合わせ持つ人材育成、多様化・専門化する医療の一線で世界を視野に活躍できる高度専門医療人の養成、高い倫理観を持って次世代の医学・医療を推進する研究者や研究医の育成を教育研究上の理念・目的としている。基礎医学、臨床医学、看護学、社会医学、創生応用医学、障害科学、放射線技術科学、検査技術科学など多様な分野が連携し、疾病予防や健康増進、医療技術の革新に取り組む。これにより卓越国際研究大学として相応しい最先端の研究成果を生み出し、世界をリードする優れた研究者や社会の諸課題を実践的に解決する医療系高度職業人を育成する。優れた成果は速やかに社会に還元し、人々の健康と生活の質の向上に寄与することを基本方針とする。

2) 研究実施体制や環境整備

総合医学専攻では高度な専門性ととともに学際的研究や総合知の涵養を重視するが、大学院生への「複数教員指導制」を導入しており、アドバイザー教員が多様な視点から研究指導を行っている。また専攻再編後は創生応用医学講座を中心に、研究科が一体となって先導的な学際領域研究や多分野融合研究を加速させる。

キャンパス内では「東北大学大学院医学系研究科リトリート」（大学院生が主体となって開催する学内研究発表会）や「若手研究者のためのネットワーキング 〜コラボして研究を大きくしよう！〜」（様々な分野の若手研究者が研究交流を深める会）が定期的に実施されており、大学院生間の活発な研究交流環境が整備されている。専攻再編後は「ネットワーキング演習」が新規開講予定で、当研究科全体で大学院生の研究活動を支える体制が一層強化される。

本研究科は共通機器室の充実に努めており、全学を網羅した「設備管理システム SHARE」と連携して、高額な研究機器約 70 台を大学院生に広く開放する一方、説明会、セミナー、デモ等も適宜開催している。さらに、機器ごとに置かれた管理協力教員が、アプリケーションの相談などにも対応している。病理標本作製のような熟練した技術を有するものは、専門的技術員を配置し、より強くサポートしている。専攻再編後は新設する大学院教育センターを中心に他学部・他大学との教育研究連携を加速させる。このように充実した研究体制や研究環境によって、総合医学専攻はより高い次元で理念・目的を実現することを目指す。

3) 研究活動をサポートする技術職員の配置状況

上記 2) で記載した共通機器室では、管理協力教員の他に、専任教員、技術職員が配置されており、共同利用設備や高額機器の管理、機器利用の調整・補助を行なっている。これによって研究者が先端的な研究を効率よく進められるようにサポートされている。さらに熟練した技術が必要な病理標本作製に関し

ては、東北大学全学組織である「病理プラットフォーム」が本研究科内に置かれており、技術職員が配置されている。

4) 研究活動をサポートする研究支援室及び URA の役割

本研究科では研究力強化と研究活動推進のために研究支援室を設置しており、教員が研究に専念でき、大学院生の研究指導に十分な時間を確保でき、グローバルな研究環境の整備に努めている。同室内に URA (University Research Administrator) 1 名を配置し、分野や教員の研究活動を把握・解析し、研究力向上の方策を共有・助言している。また、コアファシリティーで教員・大学院生が研究を効率的に遂行するために必要な人材のニーズ収集および配置を検討している。そして東北大学本部リサーチ・マネジメントセンターと連携して、研究者のネットワーク構築手法や外部資金情報の収集方法を提供している。さらに大学院生を含む若手研究者のグローバルな頭脳循環推進のため、海外研究機関との連携強化と博士取得後のアカデミックポストのマッチングを行い、世界をリードする優れた研究者の育成に努め、国際卓越研究大学として相応しい国際的な研究拠点としての発展を牽引している。

12. 施設、設備等の整備計画

1) 校地、運動場の整備計画

本研究科が位置する星陵キャンパスは、本研究科の他、大学病院、加齢医学研究所、東北メディカル・メガバンク機構、歯学研究科・歯学部などがあり、総合的な医療系のキャンパスネットワークを形成している。同キャンパス内には教育研究関連施設の他に、体育館や弓道場、サークル棟が整備されており、福利厚生施設として星陵会館を有している。

2) 校舎等施設の整備計画

本研究科の施設については、既存の大学院医学系研究科の施設を利用する。医学教育用の講義室として、6つの講義室（医学部1号館第一・第二講義室、医学部6号館講堂、臨床講義棟臨床小・中・大講堂）をはじめ、少人数による自主的な学修にも使用可能なグループ学習室（医学部6号館に16室）のほか、280人収容可能な大きな講堂である星陵オーディトリウムがある。その他各種シミュレータを備えたクリニカル・スキルスラボを整備している。

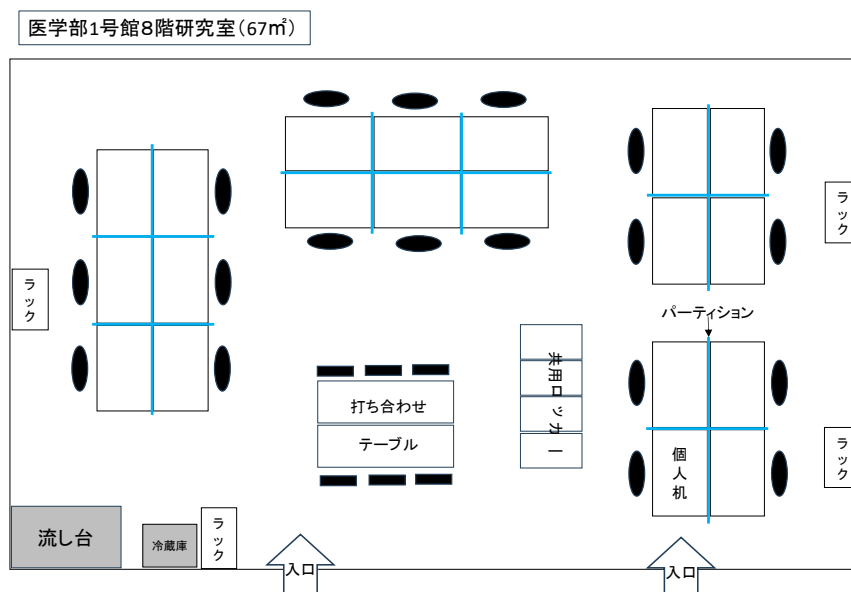
3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書について附属図書館医学分館（閲覧室399席）の蔵書は386,923冊（和書158,629冊、洋書228,294冊）、雑誌種は14,458種を数え、本専攻が位置する星陵地区の学生たちは、7時～24時（土曜、日曜、祝祭日を含む）まで利用可能となっている。館内には、学生たちが自由に対話しながら学習できるラーニングコモンズが設置されている。更に本学の附属図書館本館は8時～22時（土曜、日曜、祝祭日は10時～22時）まで利用ができる状況である。なお、これらの図書の検索については、インターネット上から検索が可能である。また、電子資料も医学分館webサイトから利用することができ、電子ジャーナル15,121タイトル、電子ブック10,261タイトル及び有用なデータベース等へのリンクを構築している。

4) 学生の研究室等の整備計画

医学系研究科専任教員の研究室は、医学部1号館～6号館など、既存の研究科内の研究室を利用する。大学院学生の実験室については、これらの専任教員の研究室内に各学生の自習スペースを確保することで、現時点で十分な学修環境が整備されている（図13）。

図13. 院生研究室の見取図



13. 管理運営

1) 執行機関

本研究科に研究科長を置き、本研究科の業務を掌理する。副研究科長は4名とし、研究科長の職務を補佐する。専攻長は、当該専攻の業務を掌理する。

2) 審議機関

(1) 研究科教授会

本学では「東北大学教授会通則」の規定に基づき、研究科ごとに教授会を置くこととされており、医学系研究科にも教授会を設置している。「研究科教授会」（以下「教授会」という。）は、医学系研究科に関する①規程等の制定及び改廃、②教員の人事、③教育研究上の組織、④学生の定員、⑤予算、⑥その他研究科に関すること等を審議する機関であり、医学系研究科及び研究科を組織する東北大学病院の専任の教授をもって構成する。教授会は構成員の3分の2以上の出席で成立し、出席した構成員の過半数の同意をもって議事を決する。（可否同数の場合は、議長の決するところによる。）

(2) 研究科委員会

東北大学大学院医学系研究科における入学、教育方法及び課程修了等については、東北大学大学院通則及び東北大学学位規程に定めるもののほか、東北大学大学院医学系研究科規程の定めるところによることとされているが、医学系研究科長は、同規程にかかわらず、必要に応じ、医学系研究科委員会（以下、「研究科委員会」という。）の議を経て、特例を定めることができるとされている。

研究科委員会は、医学系研究科に関する①教育課程、②授業及び試験、③学位、④学生の厚生関係及びその身分、⑤研究科の担当教員、⑥大学院学生経費等、⑦その他研究科に関する事項等の教学面を審議する機関として、本研究科を組織する講座、研究部門、施設等に属する専任の教授をもって構成する。研究科委員会は構成員の3分の2以上の出席で成立し、出席した構成員の過半数の同意をもって議事を決する。（可否同数の場合は、議長の決するところによる。）

なお、研究科委員会は、上記①～⑦に定める審議事項のうちの一部の事項の審議を、医学系研究科大学院合同運営委員会（以下「大学院合同運営委員会」という。）に付託することができ、研究科委員会は、上記の付託に基づく大学院合同運営委員会の議決をもって、研究科委員会の議決とする。

研究科教授会及び研究科委員会ともに議長は研究科長をもって充て、会を主催する。また、研究科長が欠けたとき等は、研究科教授会または研究科委員会があらかじめ指名した者が職務を代行する。

3) 事務組織

事務部に、事務部長を置き当該部局の事務を掌理する。総務、教務及び経理の３課を設置し、本研究科の事務を掌っている。本専攻設置後も現行の体制で引き続き事務的な支援を行う。

14. 自己点検・評価

本研究科では、自己評価・外部評価の実施、法人評価の対応、教員評価、その他の評価に関する業務を所掌する「東北大学大学院医学系研究科教育研究支援部評価室」を設定している。また、外部評価の他に本研究科では、研究科長の諮問に応じて本研究科の教育、研究、財務その他運営に関する重要事項について審議し、及び研究科長に対して提言を行うため、運営協議会を設置している。

15. 情報の公表

本学では、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、教育研究活動等の状況を積極的にウェブサイトにて公開している。

1) ～10) 掲載箇所：HOME > 情報公開・広報 > 教育研究活動等の状況

URL：<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/>

- 1) 大学の教育研究上の目的及び 3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること
- 2) 教育研究上の基本組織に関すること
- 3) 教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- 4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- 5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
- 6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- 7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- 8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- 9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- 10) 学位論文に係る評価に当たっての基準に関すること

16. 教育内容等の改善のための組織的な研修

当研究科教職員の質向上に向けて、「ファカルティ・ディベロップメント」、「教育貢献賞」、「授業評価」を実施している。さらに専攻再編後は「大学院教育センター」を設置し、大学院教育をより組織的に点検・改善していく。

1) ファカルティ・ディベロップメント (FD)

医学系研究科の准教授、講師、助教の任用にあたっては、職位ごとに規定されている論文業績に加えて、医学系研究科が認定する教育 FD を受講済みであることを要件としている。この FD は医学教育推進センターが担当し、ワークショップ形式を含む参加型で年 10 回程度（1 回 3 時間以上）開催している。さらに令和 3 年度から、講師以上の教員は年 1 回以上の東北大学全学 FD の受講が求められている。

2) 東北大学医学系研究科教育貢献賞

当研究科では、大学院教育において顕著な功績があった教員等を、選考委員会の審議を経て毎年数名表彰している。専攻に関わらず、大学院生を日々直接指導する若手教員の教育活動が主に評価される。本表彰は研究科教授会で行っており、教員の大学院教育の士気を高めるのに役立っている。

3) 授業評価

毎年、大学院で開講している全ての授業科目について、学生による授業評価を行っており、その結果を大学院合同運営委員会で共有するとともに授業担当教員にフィードバックすることで、授業の内容と方法の改善を図っている。ISTU 科目は大学院合同運営委員会で内容を点検し、計画的にアップデートを行なっている。また令和 7 年度から授業科目のナンバリングやカリキュラムツリーの策定を行い、現在 587 もある授業科目を俯瞰し、カリキュラム全体の点検・改善を行なっている。

4) 大学院教育センター

専攻再編に伴って新設を予定している大学院教育センターは、大学院教育の戦略・ビジョンの作成、学際教育の充実とともに、大学院教育の質保証や大学院教育内容の改善を担う組織となる。医学部教育を担当する医学教育推進センターとともに学生教育のためのファカルティ・ディベロップメントや教員啓発活動、大学院教育カリキュラム全般の点検や更新、当研究科の教育環境の整備等にあたり、大学院教育における PDCA サイクルを積極的に回していく。さらに学内他研究科や他大学との教育連携も積極的に推進する。